

次回のご案内

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

第17回「B&G全国サミット」 第21回「B&G全国教育長会議」

B&G財団では、会議を通じて、市長村長様、教育長様とのネットワークを更に深め、連帯、協力を密にし、地域住民の皆様の健康づくりに力を注いでいきたいと考えております。

第17回「B&G全国サミット」

日時：2025年1月22日(水)

場所：東京都内

対象：地域海洋センター所在市町村の
市町村長様、教育長様



第21回「B&G全国教育長会議」

日時：2024年11月22日(金)

場所：東京都内

対象：ブロック連絡協議会幹事教育長様、
道府県連絡協議会が推薦する教育長様、
地域海洋センター所在市町村の
教育長様他



— 皆様のご参加をお待ちしております —

第16回「B&G全国サミット」／第20回「B&G全国教育長会議」2023年度報告書

発行日：2024年3月25日

編集・制作：公益財団法人B&G財団 事業部

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル9F

電話 03-6402-5310 (代) FAX 03-6402-5315

E-mail: center@bgf.or.jp <https://www.bgf.or.jp/>

B&G

全国サミット 全国教育長会議 報告書 2023

◆ 第16回「B&G全国サミット」_2024.1.23

魅力UPで地域活性化！～関係人口UPのために海洋センターができること～

◆ 第20回「B&G全国教育長会議」_2023.11.8

地域の子どもは地域で育てる！～子どもが主役の部活動改革～

公益財団法人 B&G財団

目次

第16回「B&G全国サミット」

「B&G全国サミット」概要	2
主催者挨拶	3
特別基調講演「日本の将来どうあるべきか」	4
「令和6年能登半島地震」災害支援	11
「B&G全国サミット」正副会長の選任 / 就任あいさつ・感想	13
第20回「B&G全国教育長会議」の報告 / 全国指導者会からの依頼事項	15
事例発表「海洋センターを活用した関係人口増加の取り組み」	16
B&G財団の取り組み	18
第16回「B&G全国サミット」共同宣言	21
20年・10年連続「特A」表彰を受賞して	22
PRブース紹介	25
「特A評価」「A評価」海洋センター一覧	26
2022年度海洋センター評価について	28
「B&G全国サミット」アンケート集計結果	29
出席市町村長一覧	31
「B&G全国サミット」を終えて（参加首長、副首長、教育長等の感想）	42

第20回「B&G全国教育長会議」

「B&G全国教育長会議」概要	52
主催者挨拶	53
事前調査報告	54
シンポジウム	56
第20回「B&G全国教育長会議」提言	61
「B&G全国教育長会議」アンケート集計結果	62
「B&G全国教育長会議」を終えて（正副会長あいさつ）	63
「B&G全国教育長会議」を終えて（参加教育長の感想）	64

○岐阜県 富加町 教育長 坂井 伸生 様

子どもたちの主体性を育むためのあり方を見直す機会になりました。子どもたちの考えや意見をさらに大切にしたいと考えます。ありがとうございました。

○静岡県 沼津市 教育長 奥村 篤 様

10年後20年後を見据えた子どもたちの健やかな成長を願うことを第一とする内容が話し合われ、教育行政に携わる教育長が一堂に会することに大変な意義を感じました。

○静岡県 川根本町 教育長 山下 斉 様

掛川市・佐藤教育長のブレのない考え方について大変感銘を受けました。子ども達の未来 Well-being を見据えて、取り組んでいくべきと強く思いました。

○滋賀県 高島市 教育長 川島 浩之 様

多くの課題が山積みしている部活動の地域移行について、先進事例を紹介していただき、多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

○兵庫県 南あわじ市 教育長 浅井 伸行 様

自治体の中でも部活動地域移行にどのように取り組むべきかに悩まされる中、当市の取り組みを発表させていただきました。当市にとっても他市の取り組み事例など非常に参考になり充実した機会となりました。B&G海洋センターを活動の拠点として今後も様々な取り組みでまいりたいと思いません。

○高知県 四万十町 教育長 山脇 光章 様

第20回目の開催おめでとうございます。また参加できたことに感謝いたします。

今回は活気ある協議で本気度や本音が聞けた会議でした。

非常に感心のある部活動地域移行において先進事例や現状を知ることができ、参考になりました。多くの課題やハードルを乗り越えていく必要があるが、一歩踏み出すヒント（海洋センターの積極的・継続的な活用について再考する機会）をいただきました。

○高知県 津野町 教育長 久寿 久美子 様

地方では得られない情報が得られいい学びの機会になりました。教育はどんどん変化している中で、その内容を早く把握できることが嬉しく思い、その機会をくださった素晴らしい講師の方々に感謝を申し上げます。

○福岡県 みやこ町 教育長 柘口 広二 様

毎回、教育行政の中の重要課題に対して、解決のための情報やヒントをくれるような研修内容を企画していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

特に、一流講師を招いていただいた講話は、多くのことを学ぶことができ、教育行政の参考になります。

○福岡県 築上町 教育長 久保 ひろみ 様

課題となっている部活動地域移行について実践事例や様々な考え方が聞けて大変参考になりました。我が町の実態に合わせて子どもが求める部活動のカタチを創造していきたいと思えます。ありがとうございました。

○熊本県 美里町 教育長 宮崎 幸仁 様

自分では思いつかない発想での事例発表や素晴らしい提言等を聞くことができ、大変ためになりました。子どもたちに実際に課題解決の方向性を話し合い、検討してもらうことも良いアイデアだと思いましたし、やりすぎている部活もあるということも考える必要があると感じました。

○沖縄県 うるま市 教育長 嘉手河 弘美 様

子ども主体の部活動改革について、様々な観点から考える事ができた貴重な学びの場となりました。特に「観の大転換」という佐藤教育長の言葉に感銘を受けました。時代の変遷を見据え、これからどうしないといけないのか、子ども達が求める部活動の姿、地域活性化に繋がる部活動の実現に向けて協議し、意義ある部活動改革に取り組んでいきたいと思えます。素晴らしい企画をありがとうございました。

第16回 「B&G全国サミット」

2024年1月23日 火

魅力UPで地域活性化！

～関係人口UPのために海洋センターができること～

第 16 回「B&G全国サミット」概要

魅力UPで地域活性化!

～関係人口UPのために海洋センターができること～

334 自治体から、243 名の首長をはじめ、
副首長・教育長など 715 名が出席!



2024年1月23日(火)、ベルサール汐留(東京都中央区)において「第16回 B&G 全国サミット」を開催いたしました。海洋センターが所在する全383自治体のうち、334自治体から243名の市町村長をはじめ、副市町村長、教育長など691名が出席。来賓、ボートレース関係者、マスコミ各社を含めると、計715名の来場を数えました。

今回は、「魅力UPで地域活性化!～関係人口UPのために海洋センターができること～」をテーマに開催。第一部では元日に発生した能登半島地震における海洋センター所在自治体の被災状況及び、今後の支援策である「B&GフレンドシップPROJECT」についてB&G財団 理事長 菅原 悟志より説明。特に被害の大きかった海洋センター所在自治体の石川県志賀町、穴水町、七尾市に対し支援を行うことを表明しました。続いて4年ぶりとなる日本財団 会長 笹川 陽平氏による特別基調講演が「日本の将来 どうあるべきか」と題して行われ、昨今頻発する自然災害に対する支援、子ども・若者たちの育成や教育の重要性について述べられました。

第二部では「B&G全国サミット」正副会長の選任が行われ、会長に福井県大野市 石山 志保 市長、副会長に熊本県南関町 佐藤 安彦 町長、長野県白馬村 丸山 俊郎 村長が満場一致で選任されました。B&G 全国教育長会議 会長の千葉県成田市 関川 義雄 教育長からは、「第20回 B&G 全国教育長会議」について報告があり、続く事例発表では、大分県中津市 奥塚 正典 市長、長野県大町市 牛越 徹 市長からそれぞれの自治体で行われている関係人口UPを目指した海洋センターにおける取り組みについて発表が行われました。

最後には、今回新たに「海洋センターで地域の魅力発信」が「共同宣言」として採択され、閉会しました。

出席者の内訳

大 別	区 分	人 数
海洋センター関係	首長	243名
	副首長	26名
	教育長	176名
	代理	30名
	随行	216名
その他	来賓	21名
	報道関係	3名
合計		715名

主催者挨拶



B&G財団 会長 前田 康吉

はじめに、この度、元日に発生しました「令和6年能登半島地震」にて被災された多くの皆様に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々とご家族、ご親族の皆様に心より哀悼の意を表します。防災拠点の設置推進など、災害支援にも取り組む当財団といたしましては、被災地の皆様に寄り添い、全国の海洋センター所在市町村やB&G指導者とのネットワークがあるからこそできる形で、一日も早い復興に向けて支援をしております。

本日は、第16回「B&G全国サミット」を開催いたしましたところ、公務ご多忙のなか、全国383の海洋センター所在自治体から、240名を超える市町村長をはじめ、副首長や教育長など、総勢700名を超える皆様にご出席を賜りました。主催者を代表し心より厚くお礼申し上げます。

また、ご来賓として、日頃からB&G財団に多大なご支援をいただいております日本財団、ボートレース関係団体の皆様にもご臨席を賜り、重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、今回の「B&G全国サミット」は、「魅力UPで地域活性化!～関係人口UPのために海洋センターができること～」をテーマに開催いたします。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人流が抑制されていた数年を乗り越え日常が戻りつつある今、働き方の多様化による地方移住の需要も増加し、地方誘客による交流人口・関係人口の拡大やスポーツによる地域活性化など将来を見据えた取り組みへのニーズは高まりをみせています。

会議では、4年ぶりとなる日本財団 会長 笹川 陽平様の特別基調講演をはじめ、魅力的な海洋センターづくりを通し、関係人口の拡大や地域の活性化に繋げている好事例について首長様から発表をいただき、各自治体においてB&G海洋センターが果たせる役割について、今一度考えて頂く機会にさせていただければと考えております。

おわりに、2023年3月に50周年を迎えたB&G財団は、新たな5か年計画を策定し、多様化する社会課題の解決に向け自治体の皆さまと共に考え、さらなる地域の発展のため、これまで以上に多岐に渡る事業を全力で邁進していく所存です。

本日もご出席の皆様には、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

特別基調講演

「日本の将来 どうあるべきか」

日本財団 会長 笹川 陽平 様



ご紹介を受けました日本財団の笹川と申します。
お寒い中、多くの皆さんにB & G財団の会議にご出席を賜りまして、本当にありがとうございます。

思い起こせば、設立以来既に50年という歴史になります。ご承知の方もいらっしゃるかも知れませんが、当時日本の体育施設というのは、年に1回か2回しか使用しない大競技場を作っていましたが、笹川良一はドイツに行き、当時のオリンピック委員会の専務理事であった方と議論したときに「これからは地方レベルで子どもたちをしっかりと健康に育てていくための施設作りが大切だ」ということを勉強し、それを実行して今日まで50年、皆様方のお力添えをいただき、運営してきたわけです。

今や世界は国連を始め、あらゆる方面で「継続性」という言葉が流行りになっておりますが、B & G財団の活動こそ先見性のある「継続性」で、しかも内容も年々充実し、時代の流れの中で変化をしながら発展してきたというこのB & Gのグループは、日本の中でも唯一で最大のものではないかと思っております。皆様方のご協力、ご活躍があったからのことで、心から敬意を表するものであります。

夏目漱石の高弟でありました東大の物理学者で文筆家でもありました寺田寅彦さんという方が「災害というものは忘れた頃にやってくる」という名言を吐かれていらっしゃいました。しかし今や気候変動に伴い、災害は忘れた頃ではなく何時どこで起こってもおかしくない時代になってきたわけです。世界の中でも日本は地震のプレートが3枚も入り込んでおりますために常に地震があり、体感するのはそれほどではありませんが、機械で計測しているのを見ますと、大体365日中340日ぐらいは揺れている状況だそうです。その上台風もありますし、昨今は地域的な豪雨も日常的に起こっているわけです。

ご承知のように、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、また今回の能登半島地震などの大きなもの以外にも集中豪雨は各地で起こっておりますので、我々日本財団は、約30の専門的なボランティアを各地に配備しております。彼らはボランティアと言いながらも仕事ぶりはプロです。小型重機も持っておりますし、それぞれのグループに300万円ずつお渡ししておりますので、戦国時代ではありませんが、災害が起こればすぐ「一番乗りでどこが駆けつけた」ということです。

私もちょうど正月でしたので、富士山の裾野1100mぐらいにある40年経ったボロ屋で過ごしております。強烈な揺れが来ましたので、これは富士山が爆発したんじゃないかと思って一瞬たじろぎましたが、能登の地震だということでした。

我々の中で一番早く活動を始めたグループは、2日朝には現地に入りました。しかし今回ほど難しい地域はございません。それぞれの地域に孤立した村落がたくさんあり、自衛隊が出動しても大きな重機では道路が閉鎖されて使えない。様々な困難がありますが、我々その辺は慣れておりますし、出動する全員が小型重機の免許を持っております。今回は、小型の車に積み込んだ小型の重機、発電機、そして既に

10日近く風呂にも入っておられなかった被災者に温水のシャワーと付属する着替えをする場所を設置したシャワーキット等を車ごと RORO 船という船で運び、現地に届けました。断水の中、コロナをはじめ、様々な病気の発生も心配されますので、手洗いを何百回おこなっても浄化して使えるような装置もあり、毎日海上から船でこれらを運び込んでいるわけです。

災害時には常に、日ごとに状況が変化していきますから、その変化に対応したきめ細かいサービスが必要なんです。災害時に老人が寝られないという一番の問題は枕です。ですから今治の有名なバスタオルや素晴らしい枕を届けました。お年寄りには安眠が大変重要なことなのです。

災害はいつ起こってもおかしくない時代の中で、皆さん方の施設におきましても、防災の拠点として活躍していただいているというのは、東日本大震災でもそうでしたし、北海道でも熊本でもそうでしたし、今回の能登でも同じです。本来の皆様方の「青少年の健全育成」というところから、さらに発展してご活躍をいただいているということに心から敬意を表したいと思います。

さて皆さん、現状の日本国をお考えになった時、どのようなイメージを持っていらっしゃるでしょうか？

少子高齢化に代表されるように、これからの日本がどういう方向に進むのかということは、我々の大きな心配事であり、悩みであり、また後ほど説明いたしますが、若い人たちが実に深刻に日本の将来について憂いを持っている、そういう状況です。

私達が子どもの時分の社会科地理の授業では、世界地図の真ん中は日本でした。日本だけが赤く塗られておりまして、潜在的に私達の頭の中には「日本があって世界がある」ような印象を持っておりましたが、今やグローバリゼーションの時代になり「世界があつての日本」なんですね。日本独自では生きていくことは不可能だということは皆さんご高承の通りです。

しからば日本の現在地はどういうところにあるのでしょうか？

有名なイギリスの歴史学者アーノルド・トインビーという方が『歴史の研究』という本をお書きになりました。文明というものは生き物で、誕生し、成長し、成熟し、そして停滞し、いずれ消滅する。これまでに消滅した文明が 26、27 あるということを読んだことがあります。

しからば、日本は今どういう位置にいるのでしょうか？

昨今の新聞を見ますれば、GDP では既にドイツに越されている。決してそれだけが国力ではありませんが、あと 3 年もすれば経済的にインドネシアにも追い越される時代の中、猛烈なスピードで世界が変化をしているわけです。社会構造も私達人間のものの考え方も、あらゆる面でイノベーションが起こっているわけです。はたして世界の社会変革のスピードに私たち日本がついて行っているのか。あるいは同じスピードで走っているのかということを考えてみますと、これは大いに危惧をせざるを得ないのではないのでしょうか？

私は決して聖徳太子を批判するわけでもありませんし、大変尊敬する方ですが、十七条憲法の第一条に記されている「和をもって尊し」。日本古来の農耕民族として皆さん方の意見を集約し、その上に乗って

指導者が物事を進めてきました。戦後から今日まで何年になりましたか。私が6歳のときに終戦でしたから、1945年から数えれば、多分78年から79年になるでしょう。

しかし、日本では大規模なイノベーションは起こりません。中国を含めて世界中あらゆるところでイノベーションが起こり社会変革が進んでおり、勿論その中には混迷することもたくさんありますが、日本ではイノベーションが起こらないということを私はずっと言い続けてきたわけです。

日本人の長所である「和をもって尊し」とする。農耕民族でしたからこれは仕方のないことではありません。どこの田んぼから刈り入れをやるか、どこの田んぼから順番に田植えをするかというのは、やはり長老を中心にしてみんなで議論し、みんなが納得し、その中から順番を決めるということ。これがまた日本人の持つ素晴らしい社会秩序であることは今も変わりはありません。

しかし、大企業を見てください。大企業におきまして、皆さんから見れば素晴らしい人が、いわゆる富士山のようなどこから見ても美しい方が選ばれる方式は、現在のこのスピードの世の中に果たして合っているのでしょうか？

組織のトップに立つ人は、やはり自分の信念に基づいて「将来はこう変わるんだ、変わらなければいけないんだ」という信念と覚悟を持って仕事をするべきであり、そのようなリーダーが今、日本に必要なってきたわけです。グローバリゼーションの中で、私達の「和をもって尊し」とする文化の良いところは残しても、変わらなければいけない。ところがどんな組織においても、そういう先見性のあることを発言すれば「あいつは変わったやつだな。」悪い言葉で言えば、「あいつは変人だ。」となって、意見が通らないわけですね。

しかし今求められている指導者というのは、先頭に立って「私はこういうビジョンを持ってこういう方向に進んでいます。私が失敗したら責任を取って辞めます。」と言える指導者であり、そういうリーダーシップを持った人がいなければ、イノベーションは起こらないのです。

ですから見てください。お隣の中国にしても、どこの国にしても、世界中、私は122カ国も回ってきましたが、残念ながら、日本への評価は年々下がっております。素晴らしい国民性、素晴らしい四季に恵まれた、伝統ある穏やかな民族性というものは、インバウンドで現在来ている多くの観光客を見てもお分かりの通りです。私達は素晴らしい自慢すべきいうものを持ちながらも、宝の持ち腐れなのです。

これは別に政治の世界だけではありません。あらゆる分野で先頭に立つ人は、自信と覚悟が必要なのです。我々の先輩たちも、江戸時代でも明治維新もそうでしょう。責任を取って、場合によっては死を選んだのです。そのような覚悟をしっかりとった指導者が、このグローバリゼーション、イノベーションの時代には必要なのです。

経済界を見てください。どこにそういう人がいますか。二、三日前の新聞を拝見しても、首相官邸に経団連の会長と労働組合の会長が呼ばれて「来年の賃上げについて協力してくれ」と言われているんですよ。恥ずかしくないですか。賃金を決めるのは経団連のトップと連合の会長がサシでやる話です。自らの責任を放棄して、飄々として官邸に行って、総理から今年の春闘について要望を聞いて帰ってくる。これがリーダーと言えますか？これが自然の流れだと思い、不思議とも何とも思わない世の中になっているという

ことは大変恐ろしいことですね。

ハンチントンが書いた『文明の衝突』という本をお読みいただければわかるように、世界の8大文明の一つとして、日本は独自の文明として発達したということが書かれ、学問的にも位置づけられています。当初は中国の影響を受けてきた日本ではありますが、その後、日本独自の文化として発達し、日本語を作った。そして、ひらがな・カタカナも作った。今中国で使われている近代用語は全て日本語でございます。中国語ではありません。「中華人民共和国」という名前は、「中華」以外、「人民」も「共和国」も全部日本語でございます。何故そのようなことになったのか。

明治以来、日本の学者の中には、共産主義、社会主義に興味を持った多くの方がいらっしゃいますし、外国の文献を翻訳するために四苦八苦して言葉を作ってきたのです。慶應大学を作った福沢諭吉先生もそうですし、東京学士院学長だった西周さんもそうですし、全部言葉を作ってきたんですよ。ですから、資本主義も共産主義も社会主義も、労働者の賃金も、芸術も文化も哲学も全部、中国で今使われてる言葉、時間だとか質量だとか、物理の世界に至るまで全部日本語です。したがってハンチントンは、世界8大文明の一つが、こういう小さな島国の中に出来上がったことに敬意を示しているわけです。

長い伝統の中に、四季がちゃんとほぼ四つに区別されながら、美しい自然とともに生きてきたというのは日本だけです。産業革命以来、100年、150年、西洋社会はどのようにして自然を征服するかということで、今日の地球の混乱を招いてきたわけです。しかしながら日本はどうでしょうか。「自然とともに生きる」という言葉は日本だけの言葉です。ましてや、おそらく皆様方のお住まいの近所にもたくさんいらっしゃるでしょう。山の中に入っても3分の1を取って、3分の1は野生の動物のために、3分の1は次の収穫のためにとっておくという「3分の1方式」というのも、日本人が身につけた自然とともに生きていく術。このような日本の国を見本にしていれば、今の地球の温暖化問題だとか気候変動だとかということは起こらないで済んだと思っています。

世界は「自然を征服するのが人間だ」と。そういう生き方の中で、今こそ日本のこの良さというものを世界に発信していかねばならないにも関わらず、残念ながらそういう人物が現れてこないということは非常に残念なことです。

皆さんご承知の通り、新渡戸稲造という方がいらっしゃいました。『武士道』という本を英語で書きました。そしてアメリカの大統領はこれを読んで感激して100冊も買ってですね、「新渡戸稲造の『武士道』という本を読め」と言いました。そして彼がスイスにできた国際連盟の次長のとき、「人種差別こそ最大の人権問題だ」ということを世界で初めて国際連盟で発言して賛否を求めたところ、賛否同数になり、議長であったアメリカの大統領によって否決されてしまった。今ヨーロッパの人々が人権問題を声高に唱えています、「今更何だ」と思います。最初に言ったのは日本人ですよ。そういう国際的に活躍してきた日本人は枚挙にいとまがないことは皆さんご承知の通りです。しかしながら、今の若い人たちは、後で話しますが、そういう可能性を失いつつあるのが現状です。

しかしここで一つだけ、ひょっとしたらひょっとすることが起こりそうなんです。それは皆さんが「笹川さん変なことを言うな」って思うかも知れませんが、アメリカでトランプさんが大統領になる可能性が非常に高くなってきた。フロリダの知事・デサンティスが撤退しました。トランプは四つの刑事事件で起訴されてるんですよ。国会議事堂に乱入させた張本人はトランプですよ。その人が大統領になったら、大

統領特権で自分のそういう罪は全部免責にするんです。そういうお方がアメリカに多分、誕生するでしょう。

日本はその時どうしましょうか?「アメリカは世界一の武器大国になる。しかしそれは自国のために使うんだ。それぞれの国はそれぞれが、自分の国は自分で守るのが当たり前だろう。」こういうことを言っているんです。アフガニスタンでタリバンを制圧するために20年間、200兆円のお金を使い、1750人のアメリカの若い青年が戦死し、数千億円の近代的な武器をそのまま放置して逃げ出したのはアメリカですよ。

ウクライナ戦争はどうでしょう。まだ次の追加の武器も出せません。もちろん兵士など1人も死なせるわけにはいきません。そういう中で、私たち日本人は戦後80年近く、日米安全保障条約に守られてると皆さん思っているんですよ。アメリカはもう血を流しませんよ。どうするんです。沖縄を含めて、あらゆるところにアメリカ軍の基地があります。こんなにたくさんの米軍基地がある国なんて世界にないのです。しかもそのために、皆さん飛行機で来られたと思いますが、羽田に到着する航空路すらアメリカ軍に抑えられていて遠回りしなきゃいけない。経済的にもいくら損してるかはわかりません。国賓というのは相手国の飛行場に飛行機の手輪がついたときから国賓なんです。アメリカ大統領が日本に国賓で来るのにどこに降りるんですか。横田でしょう。米軍基地ですよ。G7が広島で行われました。どこに降りたんですか。岩国の米軍基地ですよ。気がついてもらえないのですが、そういう意味で日本は植民地ですよ。横須賀にはインディペンデントという軍艦が常に止まっています。独立って意味ですよ。象徴的なことが行われているけれども、私達は何となく戦後、平和な時代を過ごしてまいりました。

世界で最も地理的に危険だと言われているのは、実は日本なんですよ。もちろん台湾問題もありますが、北朝鮮があり、中国があり、ロシアと国境を接してますよね。世界の有識者はよくわかっていますが私達は誰も気づいてない。にも関わらず、日本人は優しい性格でのんびりしてる。万が一ランプが「自分の国は自分で守れ」と言い出したらどうするのでしょうか?

この伝統ある日本の国、世界の8大文明と言われる日本国が、これからの激動にどのようにして対処していくかということを考えたとき、アーノルド・トインビーの『歴史の研究』で言えば、日本はまさしく成長期はもう終わっていますよね。これは停滞期なのか、日本国の衰退の始まりなのか、私は岐路に立っていると思いますし、私達はここで次の世代の人たちのために、この素晴らしい世界に冠たる8大文明の一つである日本という国を次の世代子々孫々に残していく必要があるんです。

少しデータを皆さんにお見せしましょう。日本財団は毎月「18歳の意識調査」をあらゆる角度からやっておりますが、これは各地の新聞のコラムなどで、たくさんお使いいただいております。

「日本国の将来、自分の国の将来をどう思うか」を中国、インド、イギリス、アメリカ、韓国、日本で調査しました。「自分の国の将来について、良くなるかならないか」という問いに対する答えです。中国は95%以上の方が「自分の国は将来良くなる」と思っています。韓国でも33%の方が「将来韓国は良くなる」と。本当は日本よりもっとひどい状況なんですけどね。ところが日本の18歳で「日本の将来は良くなる」と考えているのはたった13%です。自分の国に対してプライドもないし、いかに将来良くしようという意欲もここには感じられません。これは18歳の子供たちの責任ではありません。私達の世代の責任なのです。

そして、これから10年後の自国の世界に対する競争力、主に経済的なことですね。それについて中国、インド、韓国、イギリス、アメリカ、日本の18歳の意識を比べた時、中国、インドが52%と31%です。あれだけ成熟したアメリカでも7.6%が10年後もまだ競争力があると考えている。日本は何と1.4%です。

18歳の未来を背負う日本人が、日本の将来にこれほど悲観的な見方をしているのです。10年後の我が国の国際競争力や如何という質問でも、インドは50%、日本はたったの2.6%、桁が違ふんです。中国やインドの途上国、イギリスやアメリカに比べても日本はたった2.6%ですよ。

「国際社会で日本はリーダーシップを取れるか。国際社会での日本の優れたリーダーがいるか」という質問に対しても、日本は最低です。残念ながらアメリカ、イギリス、中国、韓国に比べて「国際社会で活躍できる日本の人材はほとんどいない」というのが18歳の皆さんの見方です。「自分の将来について、目標を持っているかどうか。」これも6カ国の中で最低ですが、約60%の人はある程度目標も持っているといいます。他の国々はアメリカもイギリスも中国も韓国も80%以上です。

そして肝心なことは、18歳で選挙権を与えました。なぜ成人式を18歳でやらないんでしょうか？18歳で選挙権を与えて、20歳で成人式とはおかしなことですね。どうでしょうか？18歳は大人かどうか。どう思われますか。アメリカ人で「18歳は大人だ」というのが86%、イギリスも86%、中国は71%が「18歳で大人だ」と言っております。韓国でも47%、日本は「18歳で大人だ」と思う人はたった27%です。

子供に選挙権を与えているんですよ、日本は。大人だと思っていないという人に選挙権を与えているんですよ。そして「若い人が選挙に来ない」と言っているんですよ。だって「自分たちは子供だ」と思っているから選挙に行きませんよ、という極論になるかも知れませんが、このような日本の次を背負う子供たちに、一体私達ははどうしたらいいのか。大きな責任があるわけです。

そのためにはやはり今日お集まりの皆さんのように、それぞれの日本の地域社会の中において責任を持って仕事をされている方々が、自信と覚悟を持って、それぞれの地域で今申し上げたような課題に基づいて仕事をさせていただくという思いが、私は次の世代の子供たちには自信と勇気を与えると思うんです。これは東京ではありません。首相官邸でもありません。霞が関の役人でもありません。国民の苦しみや悩みや将来に対する不安に最も接触しているのが皆さん方なんです。どうぞ皆さん方こそ自信と勇気を持ってください。「このままでは日本は駄目だ。俺1人が声を上げたって駄目だよな」と決して思わないでください。かつて陽明学というものが日本では盛んでございました。「知行合一」という言葉がありましたね。知識を持った人は行動しなきゃいけない。今は知識を持った人は口と舌だけで金儲けをしている人ばかりです。そういう人を「口舌の徒」と言うのです。皆さん方はそうではありませんよね。本当に住民に密着したところで日々苦労して、どうしたらいいんだろうと常に悩んでいらっしゃる。よくわかります。問題意識を持っていらっしゃる皆さん方がこれを解決する最も重要なポジションにいらっしゃるわけですので、どうぞ自信と勇気をもって対処していただきたいと思います。

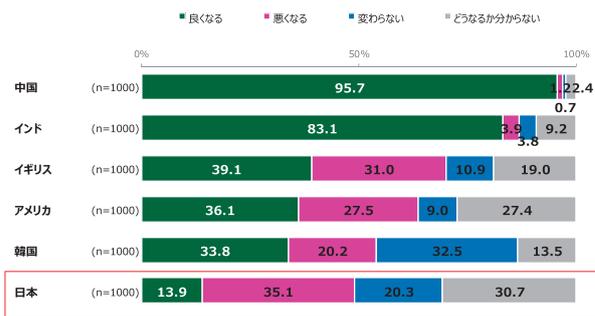
日本財団も「このままではダメだ」と考えます。人生生きていく上で「国語も算数も理科も社会も、音楽も図工も体操も何でも全部できなかつたら優秀ではない」と言われるような日本のこの偏差値教育が、このイノベーションの時代に最も弊害のある教育方法なんです。今日は教育長の皆さんもたくさんお見えになっていらっしゃると思います。日本財団はこれからZEN大学という大学を通信教育で始めます。今、国立大学に入る優秀と言われる人たちは、ほとんど経済的に恵まれた家庭のお子さんです。小学校、中

学校から塾に通い、そこで勉強して一番授業料の安い国立大学に入る。そして地方でご両親がご苦労なさってる方々が、経済的に豊かでないにも関わらず、授業料の高い私立の大学に入る。こういう逆転現象が出ている中で、偏差値教育ではあれもこれも取り組む。

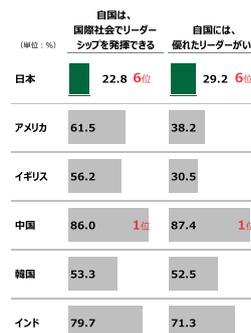
時代は変わっています。スマホの時代になりました。あらゆる情報が自宅で得られるようになりましたし、日本は資源も何もないのですから、日本財団は、これからは人材を養成する以外にないと考えます。「20年30年かかっても、新しい日本をつくる世界のリーダーを作ろう」ということで、ZEN大学という大学を文科省に申請しました。それぞれの地域で、自宅ですっかり勉強できます。しかも授業料は国立大学より安い38万円ですから、ほとんど東京の学校に来る10分の1以下で勉強ができるわけです。そして、好きなことだけを学んでいただく。「好きこそものの上手なれ」って昔からあるにもかかわらず、嫌いな音楽や図工までやらなくちゃいけないのでしょうか？好きな道で行かせてあげてほしいんです。嫌な勉強をさせるから学校に行きたくなくなるんです。それは単に自宅で勉強するだけではなく、通信教育ならば何回でもわからないところは再生して勉強ができます。ただそれだけでは人間ができませんから、それぞれの地域の、あるいはB & Gの施設も使わせていただくかもわかりません。スマホの時代はそれぞれが孤立化してきておりますので、ときには実践活動でB & Gの施設などを使わせていただき、友人関係もきちっと作っていただく。私は、偏差値教育に対抗する新しい手法を、これからの最後のお勤めだと思っております。

日本は資源がありません。人材を養成するということが最大の重要事項ではないかと思っております。文科省から許可が出ましたら、皆様方と相協力しながら、子供たちが減入っているこの状況から明るい日本へ、「あなたたちこそこれからの日本を明るく豊かにする。世界から尊敬される国に変わるために努力してください」ということを、皆さん方とともにやっていきたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

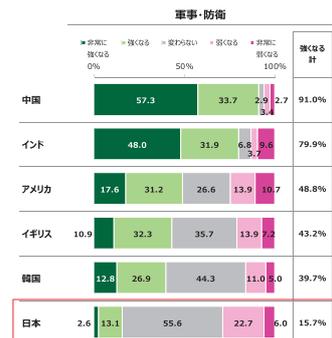
Q 自分の国の将来についてどう思っていますか。(各国 n=1000)
※「良くなる」回答率が高い順に掲載



Q 以下の項目に同意しますか。(各国 n=1000)
※「はい」回答率を掲載



Q 10年後、以下の分野での自国の競争力は、他国と比べてどうなっていると思いますか。(各国 n=1000)
※「強くなる計」(「非常に強くなる」+「強くなる」)の回答率が高い順に掲載



出典：18歳意識調査
「第46回国や社会に対する意識(6カ国調査)」報告書、日本財団、2022年3月24日

「令和6年能登半島地震」 災害支援について



B&G財団 理事長 菅原 悟志

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」に関連して、B&G財団理事長の菅原より、まず北陸ブロック内海洋センターにおける施設の被害状況について、地盤沈下や窓ガラスの破損、艇庫シャッターの全損、体育館天井の一部剥離などが発生している旨を報告しました。



石川県志賀町富来海洋センター プール



石川県七尾市海洋センター 艇庫



新潟県佐渡市羽茂海洋センター体育館

続いて、震度6強を観測し、特に甚大な被害があった石川県穴水町においては、多くの周辺家屋が倒壊する中、海洋センター体育館は耐震補強のおかげでガラス窓の破損など軽微な被害に留まり、支援物資の集積所として活用されている現状も報告。最大震度7を記録した志賀町においても、自衛隊の簡易入浴所として海洋センターの玄関と駐車場が活用されていることや、他センターでも避難所や消防本部として有効活用されている状況を共有しました。



自衛隊が物資を運び込む穴水町海洋センター体育館

最後に、今後の支援策として立ち上げた「B&G フレンドシップ PROJECT2024」について説明。「支援の隙間を無くし全ての被災者の“心”に寄り添う」をコンセプトに、「被災地のニーズに応じて、柔軟かつ迅速に、身の丈に合ったB&Gらしい支援を行っていく」と支援概要を述べました。今回、特に人的被害の大きかったB&G所在自治体の石川県志賀町、穴水町、七尾市に対し、物資支援や、被災犠牲者、その家族への支援、災害対応にあたる自治体職員等への後方支援を行うことを表明。また、「被災地の人々に笑顔が戻るよう、B&G関係自治体の皆様の底力で支援の輪を広げ、被災地に届けてまいります」と支援の協力を求めました。

支援対象： 海洋センター所在自治体（穴水町・志賀町・七尾市）

※今回の震災により死者が出た自治体への支援とする。原則、上記3自治体

サポートプロジェクト

災害時に配慮を必要とする方々への支援

- ①子ども
- ②女性
- ③障がい者
- ④高齢者
- ⑤その他要支援者

1

サポートプロジェクト

被災犠牲者とその家族への支援

- ①犠牲者
主に直接死、または災害関連死で亡くなった方
- ②ご遺族

2

サポートプロジェクト

災害対応にあたる行政職員等への後方支援

- ①所在自治体の職員
自治体に勤務する職員（主に役場等の行政機関で働く人）全員を対象

3

「B&G 全国サミット」 正副会長の選任

前任の正副会長には新型コロナウイルスの影響により、2017年度より本来3年間の任期を3度延長し、2023年1月開催の第15回全国サミットまでお務め頂きましたが、2024年1月22日をもって任期満了のため、「B&G 全国サミット」正副会長の選任が行われました。

会議規則に基づき、長年にわたり財団事業に積極的に取り組み、多大なるご理解とご協力を頂いている、福井県 大野市 石山市長を会長に、熊本県 南関町 佐藤町長および長野県 白馬村 丸山村長を副会長としてB&G財団より推薦し、当日参会の皆様のご承諾をもって正副会長に就任されました。

B&G 全国サミット正副会長

会 長 福井県大野市 石山 志保 市長
副会長 熊本県南関町 佐藤 安彦 町長
副会長 長野県白馬村 丸山 俊郎 村長
[任期：2026年度開催の全国サミット前日まで]



第16回「B&G全国サミット」を終えて



「B&G全国サミット」会長

福井県 大野市長 石山 志保 様

はじめに、令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。第16回「B&G全国サミット」が全国各地の首長やB&G関係者の皆様のご出席のもと、今回も充実した内容で開催されました。笹川日本財団会長の特別基調講演では、世界の中での日本の位置や指導者のあるべき姿などをうかがいました。また、奥塚大分県中津市長、牛越長野県大町市長の海洋センターを有効に活用した事例発表は、今サミットでの共同宣言の趣旨である、「海洋センターを活用し、地域の魅力を生かした各種事業を実施することで、関係人口の拡大・地域活性化に繋げる」ことに、大変参考になる内容でした。現在、新型コロナウイルス感染症の影響により抑えられていた人流は回復傾向にあり、これからは日常では経験できない体験や癒やしを求めて自然豊かな場所を訪れる人々が増えることでしょう。その際に安全で安心して行動できることが大切であり、海洋センターを活用した活動は今後ますます重要になります。全国の自治体様と連携を深め、青少年の育成や自然体験活動の普及などに取り組んでいきたいと思っております。結びに、B&G財団と各海洋センターの更なるご発展を祈念するとともに、引き続きB&G財団のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「B&G全国サミット」副会長

熊本県 南関町長 佐藤 安彦 様

第16回B&G全国サミットが盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。はじめに、令和6年1月1日に発生いたしました能登半島地震で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。菅原理事長よりご説明がありました通り、B&G財団も能登半島地震の被災地に対し、可能な限りの支援を実施していくとのことですので、B&G所在地域も一致団結し、支援の輪を広げていければと思います。さて、今回のサミットでは、「魅力UPで地域活性化!～関係人口UPのために海洋センターができること～」をテーマとして、大分県中津市と長野県大町市のそれぞれの自治体で行われている関係人口UPを目指した海洋センターにおける取り組みの事例発表を聞くことができ、「宿泊」「移住」について大変参考になりました。また、笹川 陽平 日本財団会長の特別基調講演では、「日本の将来どうあるべきか」という演題により、私たち市町村長の感覚では不足しているような地球規模での人の生きる道についてご教授いただき、毎回驚かされるとともに、しっかりと考える機会をいただきました。このほかにも、次代を担う子ども・若者たちが希望を見出せる社会の実現に向けた人材育成、教育の重要性や既成概念にとらわれないZEN大学等の紹介もあり、多様化する社会課題の解決についての貴重な学びになりました。当町としても、共同宣言の推進はもとより、地域社会課題解決に向けた取り組みを地域住民とともに更に踏み込んでいく必要があると感じております。結びに、本サミット関係者の皆様に衷心より感謝いたしますとともに、B&G財団ならびに関係自治体の更なるご発展を祈念いたします。



「B&G全国サミット」副会長

長野県 白馬村長 丸山 俊郎 様

「第16回B&G全国サミット」が、全国各地から多くの首長、教育長はじめ関係者の皆様のご出席のもと、盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。「魅力UPで地域活性化!～関係人口UPのために海洋センターができること～」をテーマに開催された本サミットでしたが、第1部では主催者挨拶に続き、「令和6年能登半島地震の災害支援について」の報告がありました。本年元旦に発生し、北陸地方に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命が失われ、今なお多くの方々が避難生活を強いられている令和6年能登半島地震により、亡くなられた皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。この地震災害につき、サミットに出席した多くの自治体関係者と情報共有し、支援の輪を広げ、復興に向けて意思を一つに出来たことは、大変重要で貴重な機会であったと感じており、一参加自治体として全国と協力して最大限の支援をしまっている所存です。サミット全体を通じては、少子高齢化が進む日本において、未来を切り拓くためには、グローバル化や関係人口の拡大、子育て支援が非常に大切であるとして、B&G施設の活用や取り組み事例などの紹介がされ、私自身も大変勉強になりました。私ども白馬村では、「多様であることから交流し学びあい成長する村」を、総合計画の基本理念としており、本年B&G財団のご支援のもと「子ども第3の居場所」を開設予定で、多様な個性を大切にされた子育てに更に取り組んでまいります。今後とも全国B&Gネットワークの皆様との連携を深め、課題多き時代に、希望ある未来を目指して力を合わせて取り組んでいけるよう努めてまいりたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しく願いいたします。本サミット開催にご尽力賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展を祈念申し上げます。

第20回「B&G 全国教育長会議」の報告

B&G全国教育長会議 会長
千葉県 成田市 教育長 関川 義雄 様



去る11月8日、「地域の子どもは地域で育てる!～子どもが主役の部活動改革～」をテーマとして、第20回「B&G 全国教育長会議」を開催いたしました。今回は全国44道府県から202名の教育長を含む268名が出席されました。

会議では、前任者の退任により空席となった副会長の席に、新たに兵庫県養父市の米田教育長が選任され、B&G財団からは、8月に実施した「部活動の地域移行」に係るアンケートの結果を報告。そして今回は、スポーツ庁の担当課長など有識者4名ならびに、先進的に部活動改革に取り組まれている静岡県掛川市の佐藤教育長、兵庫県南あわじ市の浅井教育長に登壇いただき、シンポジウムを実施しました。

国を挙げた「部活動の地域移行」という改革に関して、たくさんの課題がある中で、多様な視点からのご意見をいただき、改めて主役が子どもたちでなくてはならないことを認識致しました。今回の教育長会議では、心身共に健康な子どもを育てていくために「持続可能なスポーツ環境の整備」を提言。参会の皆様のご賛同により採択致しましたので、本日のサミットにご出席の皆様もぜひ一緒に推進いただきたいと思います。

また、毎年このようなタイムリーなテーマが設定され、内容の充実度から年々出席者が増えている満足度の高い教育長会議にぜひ足を運んでいただき、ともに考えていければ幸いです。

第20回「B&G 全国教育長会議」提言

一. 「持続可能なスポーツ環境の整備」

地域一丸となり、子どもたちが将来にわたり多様なスポーツに親しめる環境を創ろう

B&G 全国指導者会からの依頼事項

※交通機関の運休により当日急遽欠席となりましたため、発表趣旨を掲載致します。

B&G全国指導者会 会長
青森県南部町 町長 工藤 祐直 様



第16回B&G全国サミットが、全国の市町村長・教育長の皆様の参会により盛大に開催されましたこと、心よりお慶び申し上げます。

本来であれば私も出席する予定でしたが、当日発生した東北新幹線の停電・運休により、やむを得ず欠席となりましたこと、大変残念に思っております。

B&G全国指導者会 会長として、記載の3点につきまして、B&G所在市町村執行部の皆様に切にお願いしたいと考えておりますので、何卒ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

- (1) B&G 指導者の定期的な養成**
B&G 指導者養成研修への定期的な人材派遣をお願い致します。
- (2) 海洋センター活動の把握と理解**
スポーツ振興等に留まらず、2023年度から新たに「郷土教育」を推進しております。
- (3) B&G 指導者への激励**
日々現場で奮闘する B&G 指導者には是非激励の言葉掛けをお願い致します。

事例発表「海洋センターを活用した関係人口増加の取り組み」

大分県中津市 奥塚 正典 市長、長野県大町市 牛越 徹 市長、両名からそれぞれの自治体で実践している「関係人口UP」を目指した海洋センターにおける取り組みの事例発表がありました。ハード・ソフト両面から海洋センターを魅力的な施設に作り上げることで地域の活性化や自治体外からの誘客においても成果を上げており、出席した各自治体関係者の皆様からは「今後我が町でも取り組まなければいけないことのヒントをもらえた」「刺激を受けた」「大変示唆に富んだものであり有意義な情報を得られた」と好評をいただきました。

大分県中津市耶馬溪B & G海洋センター

「新たな交流拠点として再生 ～宿泊機能付加改修による交流促進と地域活性化～」



中津市長
奥塚 正典 様

大分県の北西端、福岡県との県境に位置し、人口は約82,426人。小学校21校、中学校10校、幼稚園11園。

2017年日本遺産に登録された「やばけい遊覧」をはじめとする豊かな自然を有し、山・川・海がつながり、「中津からあげ」「ひがた美人(牡蠣)」などおいしい食材にあふれた豊のくに。その景観に魅せられ古くから多くの文化人が訪れた。黒田官兵衛や福澤諭吉など数多くの著名人を輩出してきた歴史あるまち。

全国初の公営水上スキー施設として1994年にオープンした耶馬溪アクアパーク(海洋センター隣接)には、全国各地から多くのマリンスポーツ愛好者が訪れる。

耶馬溪B&G海洋センターは、耶馬溪により長い時間滞在することで、地域の子どもや住民とのふれあいを創出し、過疎地域に元気をもたらすことを目的に、2022年度に宿泊機能付加改修工事を行った。今までの体育館機能に加え、食堂・調理室、ランドリーの新設やシャワールームの改修などを実施し、交流が生まれる多機能型海洋センター「やばすぽ(愛称)」へ生まれ変わった。

テント等の備品も配備したことにより、プライベート空間の確保を行った上でおよそ50～60名程度を収容することができるようになったことで、これまで日帰りで実施していた子供対象のB&G塾や親子対象事業が宿泊型で実施できるようになるとともに、通学合宿など新たな取り組みも可能となった。また、関東在住の水上スキー部の大学生や、市内の少年野球チーム・サッカーチーム・スイミングスクール等が合宿所として活用するケースも増加し、関係人口拡大に繋がっている。

奥塚市長は、施設の改修や様々な宿泊型事業の実施だけでなく、「B&G指導者養成研修への定期的な人材派遣、指導員の技術・伝統



の継承や、地域の中高生をジュニアボランティアとして育成するなど、人材育成を行うことでこの成功が得られている」と強調した。

2022年度の施設改修以降、より誰でも気軽に利用できる施設に生まれ変わった「やばすぼ」。市内外からの利用者数は一律に増加。特に市外からの利用者においては、コロナ禍前の2019年度に比較し、第1体育館（156%↑）、武道場（167%↑）、プール（203%↑）といずれの施設も大幅に利用率が向上する成果を上げている。

長野県大町市B&G海洋センター

「水が生まれるまち信濃大町 ～水とふれあい人がつながる 海洋センターが繋ぐ地域の未来～」



大町市長
牛越 徹 様

長野県の北西部に位置し、北には白馬村、西は北アルプスを隔てて富山県に隣接。

信濃川の最上流部にあり、市の面積の88%を森林が占める。標高3,000m級の山々が連なる北アルプスと「水の生まれる信濃大町」として、豊かで清冽な川、仁科三湖と呼ばれる3つの湖の恵を受け、自然を肌いっぱいを感じるアクティビティが豊富。蕎麦やジビエ、山菜など、信州ならではのグルメも人気を集める。人口は25,719人。

2013年、移住促進のため「定住促進ビジョン」を掲げ、2012年度には1桁だった移住者の世帯数は、2019年度以降は年間8倍以上に増加する効果をあげている。

仁科三湖の一つ、木崎湖のほとりにある大町市の艇庫は、近年B&G財団の海洋センター「修繕助成金」制度を活用し、艇庫に温水シャワー・水洗トイレを整備。「活動器材追加再配備」制度も活用し、ライフジャケットやSUP・ウインドサーフィンなど器材の充実を図っている。直営施設で季節限定の開館であるものの、カヌー教室などの通常の活動に加え、他課や関係団体と連携を図りながら、交流人口の拡大を目的に「移住体験ツアー」「姉妹都市中学生交流」「周辺市町村在住の子供向けプログラム」などに積極的に活用している。こうした地道な取り組みが実を結び、徐々に移住者が増え、2012年から2022年までの移住者が人口の3%に達する見込みである。

牛越市長は、「出来ることからコツコツと取り組みを進めた結果であり、これこそが未来に繋がる大町市の土台となるものであり、海洋センターの存在が欠かせないものとなっていることに間違いない。今後も魅力あふれる海洋センターでありつづけること、そしてその海洋センターをしっかりと活用し、未来につなぐ大町市を創っていきたい」と結んだ。



B&G 財団の取り組み

B&G 財団は設立 50 周年を機に、新たに 5 か年計画 (2023 ~ 2027) を策定し、「青少年の健全育成」と「地域活性化と地方創生」を理念に5つのミッションを掲げました。自治体と共に社会課題の解決に向けて、新たな一歩を踏み出しています。

「青少年の健全育成」と「地域活性化と地方創生」

Mission 1 子ども・子育て支援 子どもたちのより良い未来を創り、見守る	BG塾	第三の居場所	海洋センター 修繕助成				
Mission 2 防災と災害復旧 災害から地域を守り助ける	防災拠点 設置	多国籍 防災キャンプ	海洋センター 修繕助成				
Mission 3 海と環境 豊かな自然と海に親しみ共生する	指導者 養成研修	海ごみゼロ フェス	拾い箱		水辺の 安全教室	砂ASO Beach	次世代型 艇庫
Mission 4 健康と生きがいづくり 幸福と健康を生み出し、育む	障がい者 スポーツ 推進PJ	BG塾	第三の 居場所		海洋センター 修繕助成		
Mission 5 コミュニティ再生とまちづくり 地域と文化を興し地方に寄り添う	中津市 モデル事業	偉人 マンガ	全国会議		砂ASO Beach	海洋センター 修繕助成	

2023 年度主な実施事業

多国籍防災キャンプ in 可見

※子どもゆめ基金助成事業

NEW!



障がい者スポーツ推進プロジェクト

(富山県南砺市福野、兵庫県上郡町、山口県周防大島町、香川県高松市国分寺) ※スポーツ庁受託事業

NEW!



2024 年度主な事業予定

海洋ごみ削減への取り組み 漂着ごみ専用ごみ箱「拾い箱」

5自治体
募集

海岸清掃イベント時のみならず、地域住民や海岸を訪れた観光客が自主的に海洋漂着ゴミを拾えるよう、B&G財団と自治体が連携して、海岸近くに漂着ごみ専用ごみ箱「拾い箱」を設置することで、「いつでも・誰でも」海浜清掃を行える環境を整え、海洋ごみ削減に寄与することを目的に実施。

項目	詳細
事業内容	・拾い箱の設置 (計画・仕様検討・製作・設置) ・拾い箱お披露目会と関連イベントの開催
スケジュール	2024年3月: 希望自治体募集 (予定) 2024年4~6月: 製作・設置
支援内容	233万円 (上限) を助成 / 1自治体



長崎県時津町



鹿児島県天城町

海洋センター修繕助成

修繕助成金の受付 (2025 年度分)

◆申請時期：2024 年 8 月～ 8 月末 (予定)

	修繕の種類	対象	体育館	プール	艇庫	助成率上限
1	通常修繕 (2001年度以降の助成額累計)	特A・A	3,000万円	3,000万円	1,000万円	特A:70%以内 A:60%以内
2	災害復旧修繕	特A～D	3,000万円	3,000万円	1,000万円	保険対象除き 70%以内
3 ※1	特別施設整備	特A～D	3,000万円	3,000万円	1,000万円	50%以内
	艇庫特別措置	特A～D	—	—	5,000万円	50%以内
	プール特別措置	特A～D ※3	—	1億円	—	80%以内
	10年連続特A優遇措置 ※2	特A	3,000万円(複数施設同時申請可)			80%以内
15年連続特A優遇措置 ※2	特A	5,000万円(複数施設同時申請可)			80%以内	

<修繕事例>

体育館の観客席増築
(宮城県蔵王町)



フロアマット敷設によるキッズパーク
(北海道大空町女満別)



上屋付きプール屋内温水化
(北海道大樹町)



熱中症対策事業

建設当時 (1970 ～)

現在 (2023)



(参考:東京都)

夏(6月～8月)
の平均気温
24.5℃
夏(6月～8月)
の最高気温
35.5℃

地球温暖化



屋内は夏場50℃以上に



(参考:東京都)

夏(6月～8月)
の平均気温
27℃
夏(6月～8月)
の最高気温
37.7℃

ビニールシートでプールを覆っているため、保温性が高く、屋外プールよりも利用期間が長い

【対策】 シートをめくり風を通す・水を噴霧し、涼をとる
日よけをプールサイドに作る etc.

【現状】 温暖化の影響で、プール内の気温を大幅に下げることができず、十分な熱中症対策がとれていない

◆申請時期：2024 年 2 月中旬～ 3 月初旬 (予定)

◆対象：上屋付きプールを保有する海洋センター (海洋センター評価：特 A 以上)

◆設置数：30 カ所 ※審査あり

◆内容：冷暖房を備えた救護室、救護ベッド・ベンチ、大型扇風機等の配備

<自治体の費用負担>

エアコン・照明を備えた救護室への電気引込み工事費用及び運用における電気代

※基礎工事が必要な場合、基礎工事費等



特別
支援

2024年度 ブロック連絡協議会総会

2023年度
現職市町村長90名
総勢878名出席!

「ブロック連絡協議会総会」とは▼

全国各ブロック内に所在する海洋センター等によって構成される「ブロック連絡協議会」が主催する会議。

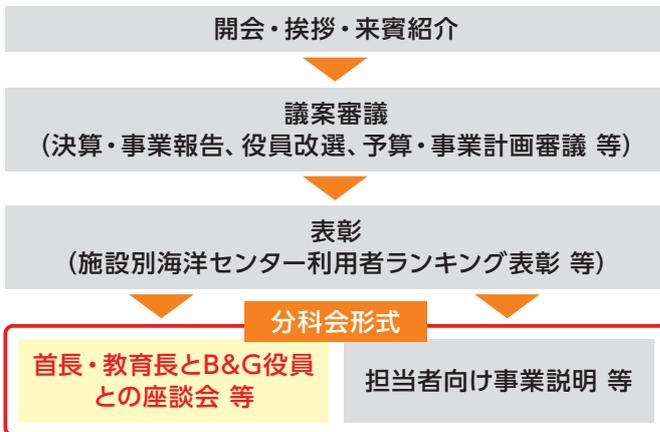
例年、事業計画や決算報告、予算の審議・承認などが行われるほか、B & G財団より当該年度事業説明等を行います。

対象：海洋センター所在市町村の**市町村長様、教育長様、**
海洋センターご担当者様

ブロック連絡協議会総会の開催方法が変わります!!

より有益な会議となるよう、以下の実施方法に変更いたします!

●今後のブロック総会の流れ(一例)



※ブロック毎に流れが異なる場合があります

●2024年度各ブロック幹事・総会一覧

ブロック	ブロック幹事自治体	ブロック総会開催地・日程(予定)
北海道	北海道 砂川市	開催地：北海道砂川市 日程：4月11日(木)
東北	秋田県 湯沢市	開催地：福島県いわき市 日程：5月20日(月)
関東	千葉県 長南町	開催地：東京都港区 日程：5月8日(水)
北陸	富山県 氷見市	開催地：新潟県上越市 日程：5月23日(木)
中部	静岡県 磐田市	開催地：愛知県名古屋 日程：5月14日(火)
近畿	和歌山県 紀の川市	開催地：和歌山県紀の川市 日程：5月29日(水)
中国	島根県 美郷町	開催地：島根県美郷町 日程：5月16日(木)
四国	愛媛県 西条市	開催地：愛媛県松山市 日程：5月9日(木)
北九州	長崎県 杵岐市	開催地：長崎県杵岐市 日程：5月17日(金)
南九州	熊本県 津奈木町	開催地：熊本県熊本市 日程：5月10日(金)

※日程等が変更となる可能性があります

次年度は、記載の場所・日程で各ブロック総会を開催予定ですので、日程のご調整をお願いします!

自治体派遣研修制度

B&G財団では2003年度から毎年、海洋センター所在自治体から職員の出向を受け入れ、財団事業への参画や各種研修を行う「自治体職員派遣研修制度」を実施しています。

2023年度の自治体派遣研修生3名が壇上で挨拶を行いました。



事業部 海洋センター・クラブ課
三木 寛之
(大分県中津市より出向)



事業部 海洋センター・クラブ課
平川 雄基
(熊本県長洲町より出向)



地方創生部 防災推進課
合佐昆 恭平
(北海道鷹栖町より出向)

- ◆目的：①幅広い視野を持った人材の育成を図るため
②自治体と財団のパートナーシップをより強固なものにするため
③「海洋センター」の更なる活性化を図るため
- ◆研修期間：1年間(4月～3月)
- ◆財団負担費用：都内マンション代、研修に係る経費等(総額約300万円)
- ◆自治体負担費用：着任時(4月)・帰任時(3月)の旅費、給与(賞与)
- ◆研修内容：センター・インストラクター養成研修参加、2級小型船舶操縦免許取得、各種研修参加、財団事業の企画運営 他

「B&G 全国サミット」 共同宣言

今年で16回目を迎えた「B&G 全国サミット」。地域の魅力を生かした各種事業を展開し、関係人口の拡大・地域活性化に繋げる共同宣言が新たに採択されました。

海洋センター所在自治体の多くが抱える、地方の人口減少に伴う地域産業の担い手不足、高齢化社会の加速化などの社会問題に対し B&G 海洋センターを積極活用して解決を目指していく提言となりました。

今回のサミットでは、上記課題に対し海洋センターと地域資源を有効活用しながら関係人口の拡大や移住人口増加を目指す手法や方策について、先進的な海洋センターの取り組みが発表されました。関係人口を増やす上で、従来通りの海洋センターの使用方に留まらず、ハード・ソフト両面から様々な工夫をし、多様な対象者に喜ばれるサービスを提供するなど、魅力的な海洋センターづくりを行うことで、自市町村内外から多くの人々を海洋センターに集めていくことの重要性が改めて確認されました。

第16回 B&G 全国サミット 共同宣言

- 「海洋センターで地域の魅力発信」
海洋センターを活用し、地域の魅力を生かした各種事業を実施することで、関係人口の拡大・地域活性化に繋げよう!

2024年1月23日

海洋センター所在市町村長一同



20年連続「特A」表彰を受賞して

青森県南部町名川B & G海洋センター



青森県南部町 町長 工藤 祐直 様

この度は、20年連続の特A表彰をいただき、誠にありがとうございます。
今回まで表彰していただけたのも、当町海洋センターだけの力ではなく、
B & G財団のご指導や県内外海洋センターのご協力があったからこそと実感
しております。当町海洋センターは、B & G財団の重点事業や指導員の育成
などに積極的に取り組み、青少年の健全育成や地域住民の健康づくりを推進
してきました。今後は、皆さまのご協力をいただきながら、地域活性化と地
方創生を目指し邁進してまいります。

■B & Gスタッフ・指導員の声

20年連続で特A評価をいただけたこと、町長をはじめ歴代指導員、スタッフ全員が大変うれしく感じております。修繕助成などに関係する海洋センター評価は、海洋センターを管理する町にも大きく関係してくることを忘れずに、B & G財団事業、センター事業ともに積極的に実施していきます。指導員一丸となり、子どもから高齢者まで、多くの地域住民に笑顔になれる機会を提供できるよう努力してまいります。



埼玉県久喜市栗橋B & G海洋センター



埼玉県久喜市 市長 梅田 修一 様

この度、久喜市栗橋B & G海洋センターが20年連続「特A」評価を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。これも、B & G財団関係者をはじめ、歴代の指導者や多くの関係者のお力添えのおかげと心から感謝申し上げます。今後も、市民の誰もがスポーツや運動等を通じて心身ともに健康でいきいきと暮らせる「健幸・スポーツ都市」を目指し、施設を活用してまいりたいと思しますので、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■B & Gスタッフ・指導員の声

B & G 20年連続特A表彰ありがとうございます。特A継続のために、長年続けてきた事業の継続と新規事業に積極的に取り組んだこと、そして近隣の海洋センターと交流を深めることを心掛けてきました。

今後も、連続特Aが維持できるよう、「久喜市栗橋B & G指導者会」メンバーとセンター職員の絆を深め、センター事業・運営に協力して参ります。そして益々、未来を担う子供たち、また、地域の人々に愛され、笑顔と元気があふれる久喜市栗橋B & G海洋センターにして参ります。



10年連続「特A」表彰を受賞して



青森県鶴田町 町長 相川 正光 様

この度、鶴田町B&G海洋センターの活動に対し10年連続「特A」評価を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。これもB&G財団関係者皆様のご指導、ご支援によるものと心より感謝申し上げます。また、青森県内初の「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業においても、格別のご配慮を賜りましたこと、重ねてお礼申し上げます。これからも青少年の健全育成と町民の健康増進、地域の防災・減災、相互支援の場として幅広い活動を展開してまいりますので、引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願い致します。



岩手県一関市 市長 佐藤 善仁 様

この度、藤沢B&G海洋センターが前年の東山B&G海洋センターに続き、10年連続「特A」評価の表彰を賜り、当センターの活動が高く評価されたことを光栄に思います。B&G財団関係者の皆様をはじめ、日頃よりご支援・ご指導いただいた多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

当市のスポーツ推進計画の基本理念である「誰もがスポーツを楽しみ 健康でいきいきとした生活の実現」を目指し、市民の健康増進やいきがづくりの場として、今後ともB&G海洋センターを活用してまいりますので、引き続きご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。



福島県塙町 町長 宮田 秀利 様

この度、「特A評価10年」表彰の栄に浴する事が出来ましたこと、誠に有り難く、B&G財団関係の皆様の長年にわたってのご指導ご支援に、衷心より御礼申し上げます。ご高配を頂き開設する事が出来ました「子ども第三の居場所」、そして「防災拠点の指定による防災機器の配備等」の運営・運用に対しましてのご教示、ご協力を賜りながら、B&G財団様の目指すまちづくり、更には子ども・地域を守る等の幅広い地域貢献のために、一層の努力を重ねて行く所存であります。

引き続き関係の皆様の力強い、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



千葉県成田市 市長 小泉 一成 様

この度、成田市大栄B&G海洋センターの活動が高く評価され、10年連続「特A」評価による表彰を賜りましたこと、大変光栄に思います。これも、B&G財団の関係者の皆様によるご指導の賜物であると心より感謝申し上げます。また、これまで施設運営にあたり、大規模修繕や熱中症対策事業において格別のご配慮を賜りましたこと重ねて御礼申し上げます。今後も、市民の健康増進及びスポーツ活動の促進を図る場として、子供から大人まで幅広い世代の方々にご利用いただき、皆様に愛される施設となるよう努めてまいりますので、引き続きご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



三重県志摩市 市長 橋爪 政吉 様

この度は、志摩市志摩B&G海洋センターの活動が高く評価され、10年連続「特A」評価による表彰を賜りましたことはB&G財団をはじめ、日頃よりご支援、ご指導をいただきました皆様のおかげであり深く感謝申し上げます。当センターは、市民の皆様からスポーツ、健康づくりの場として親しまれると共に、学校授業やクラブ活動の受け入れなど青少年の健全育成の場として活用しております。また、スポーツ合宿など市外からスポーツツーリズムで訪れる方にも多くご利用いただいております。これからも「子や孫の世代に自慢できる新しい志摩市」の実現のため、「新陳代謝」をキーワードに、スピード感を持って、スポーツ推進及び健康推進施策に取り組んでまいります。今後も地域の方をはじめ、ご利用されるすべての皆様から愛される施設を目指して活動を進めてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



島根県松江市 市長 上定 昭仁 様

このたび、松江市宍道B&G海洋センターの活動を高く評価していただき、10年連続で「特A」の表彰を頂戴しましたことは、B&G財団の皆様にご指導いただいたお陰にほかならず、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。平成11年に竣工し運用を開始した当センターは、平成30年にB&G財団より多額の助成を賜り、空調機器更新、内装の改修、照明のLED化など大規模な改修を実施いたしました。その結果、良好な練習環境における選手諸氏のひたむきな努力が身を結び、各水泳大会において優秀な成績を収める選手を多数輩出するに至っております。今回の「特A」表彰を励みに、皆様から愛されるスポーツ活動・健康づくりの拠点施設となるよう、さらに努力を重ねてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



愛媛県鬼北町 町長 兵頭 誠亀 様

この度、鬼北町広見B&G海洋センターが10年連続「特A」評価をいただき、その活動が高く評価されたことを光栄に思います。B&G財団関係者の皆様をはじめ、日頃よりご支援・ご指導いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。鬼北町広見B&G海洋センターは今回の表彰を励みに、今後も青少年の健全育成をはじめ、町民の体力・健康づくりの場として施設を活用してまいりたいと思いますので、引き続きご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。



福岡県築上町 町長 新川 久三 様

この度、築上町築城B&G海洋センターが10年連続「特A」評価をいただき、当センターの活動が高く評価されたことを誠に光栄に存じます。これも、B&G財団関係者の皆様をはじめ多くの関係者によるご支援・ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。本町では2021年度に「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業にも着手し、近年増加している自然災害にも対応できる施設として地域防災力向上の一助となる活動を展開しております。今後とも少年団活動や海洋クラブなどのスポーツ活動の拠点、町民の体力・健康づくりの場として地域の皆様から愛される施設を目指して活動を進めてまいりますので引き続き関係者の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



佐賀県太良町 町長 永淵 孝幸 様

この度、全国サミットにおきまして10年連続「特A」表彰を賜り、大変光栄に思います。これも、B&G財団の皆様による多大なるご支援の賜物と心より感謝申し上げます。今後も青少年の健全育成に務めるとともに、地域の方々に愛されるセンター運営を行ってまいりますので、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



鹿児島県南さつま市 市長 本坊 輝雄 様

この度、南さつま市坊津B&G海洋センターの活動が評価され、10年連続「特A」評価による表彰を賜りましたことを大変光栄に思います。これもB&G財団関係者の皆様の多大なるご支援・ご指導の賜物であり、また、これまでのセンター施設改修をはじめ、「ふるさとゆかりの偉人マンガ制作活用事業」「子ども第三の居場所開設」においても格別のご配慮を賜りましたこと、改めて深く感謝申し上げます。当センターは青少年の健全育成や市民の皆様、地域の皆様が海洋レクリエーションを気軽に体験できる場として親しまれており、学校授業や体験学習などでも多く活用されております。今後も利用者の皆様が楽しく、安全に活動できるセンターを目指して、幅広い事業展開や施設運営に努めてまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

自治体 PR ブース

10年連続特A評価を獲得した市町村によるポスターや特産品の展示が行われました。

開会前には控室による展示、会議休憩中は会場外のロビーにて展示を行い、各市町村による魅力の発信や参加者同士の情報交換が行われました。本年は元日に発生した能登半島地震の情勢を鑑みて例年行われていたレセプションを中止としたため、限られた時間での展示となりましたが、大変盛況している様子が見受けられました。特に、特産品を提供している自治体ブースがにぎわいました。



愛媛県鬼北町によるゆずジュースの提供



福島県塙町によるごんにゃく餅の提供



佐賀県太良町によるミカンの提供



持参の拡声器で盛り上げる太良町 織田指導員

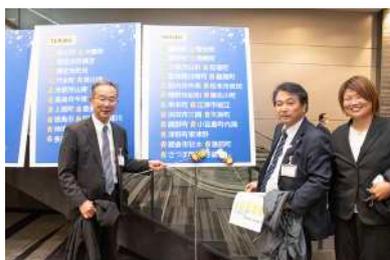
10年連続特A評価獲得 自治体 PR ブース出展自治体一覧

青森県鶴田町	岩手県一関市	福島県塙町	千葉県成田市
愛媛県鬼北町	佐賀県太良町	鹿児島県南さつま市	

また、同会場には優良海洋センター一覧が掲示され、表彰された自治体の方が記念撮影をしていました。



優良海洋センター一覧の展示



20年連続特A特別展示

2022年度 優良海洋センター表彰

■「特A評価」海洋センター 337カ所

No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名
1	北海道	砂川市 15	66	東北	能代市	131	北陸	富山 高岡市福岡
2		小平町	67		にかほ市金浦	132		富山市八尾
3		厚岸町 12	68		男鹿市 11	133		穴水町 15
4		剣淵町 13	69		横手市十文字	134		志賀町富来 13
5		大樹町 15	70		由利本荘市西目	135		白山市鶴来
6		鷹栖町 14	71		由利本荘市大内	136		越前町朝日
7		斜里町 12	72		八郎潟町	137		勝山市
8		愛別町 14	73		大仙市神岡	138		あわら市金津
9		遠別町	74		大潟村	139		大野市 12
10		新篠津村	75		由利本荘市由利	140		坂井市春江
11		大空町東藻琴 13	76		にかほ市象潟 13	141	坂井市丸岡	
12		北竜町	77		舟形町 11	142	甲州市勝沼	
13		下川町	78		酒田市平田 12	143	中央市玉穂	
14		東神楽町	79		柳津町	144	山梨市牧丘 13	
15		名寄市風連 12	80	小野町 16	145	南アルプス市白根 13		
16		積丹町 14	81	埴町 10	146	甲斐市敷島 12		
17		名寄市	82	田村市滝根	147	甲斐市双葉 13		
18		和寒町	83	かすみがうら市千代田	148	甲州市塩山 13		
19		芦別市	84	笠間市岩間	149	大町市 13		
20		長万部町	85	小美玉市玉里	150	下條村		
21		上富良野町	86	八千代町	151	白馬村 11		
22		東川町	87	北茨城市 11	152	飯綱町牟礼		
23		美幌町 14	88	石岡市	153	飯島町		
24		大空町女満別 13	89	五霞町 13	154	上松町		
25		石狩市 16	90	小美玉市小川	155	生坂村		
26		浦臼町 13	91	常陸太田市水府	156	飯綱町三水		
27		秩父別町	92	下野市国分寺 12	157	阿南町		
28		沼田町 12	93	那須烏山市南那須 13	158	松本市波田 14		
29		岩見沢市栗沢	94	さくら市喜連川	159	可児市 16		
30		苫前町 12	95	那須塩原市塩原	160	川辺町		
31		滝川市 21	96	芳賀町 17	161	八百津町 17		
32		古平町 13	97	板倉町	162	中津川市福岡		
33		室蘭市	98	みなかみ町新治	163	御嵩町 12		
34		弘前市 12	99	明和町 16	164	富加町		
35		五所川原市市浦	100	玉村町 16	165	中津川市加子母 12		
36	平川市尾上	101	吉見町	166	中津川市付知 12			
37	鶴田町 10	102	幸手市	167	掛川市大東 11			
38	南部町名川 20	103	嵐山町	168	掛川市 15			
39	平内町	104	久喜市栗橋 20	169	磐田市竜洋			
40	五所川原市金木	105	松伏町 13	170	川根本町本川根			
41	六戸町 13	106	白岡市 13	171	牧之原市相良 13			
42	中泊町中里	107	いすみ市	172	松崎町			
43	弘前市岩木	108	御宿町	173	掛川市大須賀			
44	山田町	109	横芝光町横芝 15	174	袋井市袋井			
45	久慈市山形 14	110	香取市小見川 13	175	御前崎市			
46	一関市東山 11	111	大多喜町 13	176	沼津市戸田			
47	岩泉町	112	香取市栗源	177	浜松市三ヶ日			
48	洋野町種市	113	南房総市千倉	178	新城市作手 13			
49	八幡平市松尾	114	成田市大栄 10	179	東栄町 13			
50	大船渡市三陸	115	香取市山田	180	清須市春日			
51	普代村	116	銚南町 14	181	西尾市一色			
52	奥州市前沢 11	117	横芝光町光 15	182	豊川市小坂井			
53	花巻市東和	118	胎内市中条 14	183	大台町			
54	一関市藤沢 10	119	阿賀町三川	184	大紀町大内山			
55	陸前高田市	120	佐渡市小木	185	桑名市長島 13			
56	登米市中田	121	燕市 11	186	伊勢市御園			
57	涌谷町	122	阿賀野市安田	187	菟野町 13			
58	亘理町 14	123	上越市頸城	188	熊野市紀和 14			
59	松島町	124	糸魚川市能生	189	志摩市志摩 10			
60	川崎町 14	125	新潟市中之口	190	伊賀市大山田			
61	大郷町 13	126	新潟市味方	191	伊賀市阿山			
62	大崎市松山	127	新潟市新津	192	志摩市浜島			
63	蔵王町 16	128	佐渡市羽茂	193	龜山市関 13			
64	登米市迫	129	砺波市	194	野洲市中主 13			
65	加美町中新田	130	南砺市福野 16	195	米原市山東 15			

No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名									
196	近畿	多賀町	244	中国	矢掛町 14	292	北九州	みやこ町豊津									
197		滋賀	高島市高島		245	岡山		鏡野町 14	293	福岡	久留米市三瀬						
198			甲賀市甲南		246			徳島	赤磐市吉井 13		294	佐賀	川崎町				
199			米原市伊吹 13		247				山口		新見市大佐		295	長崎	朝倉市甘木 14		
200			長浜市浅井		248						徳島		府中市 19		296	大分	太良町 10
201			高島市今津 15		249								香川		東広島市黒瀬 11		297
202		甲賀市甲賀	250		愛媛	呉市蒲刈				298					鹿児島		鹿島市
203		京都	南丹市園部			251		高知		安芸高田市高宮		299					宮崎
204			宮津市			252			福岡	尾道市向島		300		沖縄			
205			大阪			堺市美原 12				253	徳島	北広島町大朝				301	
206		南あわじ市南淡 16				254				香川		安芸高田市八千代	302			徳島	
207		兵庫	宍粟市千種		255	高知						安芸高田市美土里	303		徳島		
208			新温泉町浜坂		256			徳島				北広島町芸北	304				徳島
209			豊岡市出石		257				徳島			東広島市安芸津 11	305	徳島			
210			市川町		258						徳島	萩市むつみ	306				
211			養父市おおや 11		259					徳島		田布施町	307			徳島	
212			上郡町 15		260	徳島						長門市日置	308		徳島		
213			豊岡市竹野		261			徳島				周防大島町 17	309				徳島
214			香美町香住 15		262				徳島			岩国市美和	310	徳島			
215	姫路市家島		263	徳島	阿南市那賀川		311				徳島	国東市国見					
216	淡路市東浦		264		徳島		徳島市 15			312		徳島	竹田市直入				
217	芦屋市	265	徳島			阿南市	313			徳島			豊後高田市真玉				
218	猪名川町 14	266				徳島	牟岐町	314					徳島		由布市挾間		
219	和歌山	串本町 14					267	徳島	東みよし町三加茂					315	徳島	長洲町 13	
220	中国	鳥取市 12		268			徳島		美波町由岐		316			徳島		津奈木町 12	
221		鳥取市佐治		269	徳島				那賀町鷺敷 12		317	徳島				湯前町 14	
222		鳥取市気高	270	徳島					海陽町海南	318	徳島					菊池市泗水	
223		鳥取市鹿野	271			徳島			さぬき市津田	319			徳島			熊本市城南	
224		北栄町北条 13	272					徳島	小豆島町内海 14	320					徳島	玉名市岱明	
225		伯耆町岸本 13	273				徳島		さぬき市寒川	321				徳島		南関町	
226		島根	松江市松江		274				徳島	綾川町綾上		322				徳島	南阿蘇村白水
227			江津市桜江 14	275	徳島					高松市国分寺	323	徳島					宇城市三角
228			浜田市三隅 14	276		徳島				三木町	324		徳島				菊池市旭志
229			雲南市加茂 17	277				徳島		今治市吉海	325				徳島		あさぎり町免田
230	美郷町邑智		278	徳島			久万高原町久万			326	徳島			宮崎市田野			
231	松江市宍道 10		279				徳島		松山市中島 16	327				徳島		いちき串木野市串木野 16	
232	岡山市建部		280		徳島				鬼北町広見 10	328		徳島				長島町 15	
233	備前市吉永 11		281			徳島			西条市丹原	329			徳島			阿久根市 11	
234	真庭市蒜山		282					徳島	愛南町御荘 19	330					徳島	鹿屋市串良	
235	新見市哲多		283	徳島					今治市朝倉	331	徳島					さつま町 14	
236	井原市美星	284	徳島				津野町東津野 14		332	徳島				日置市東市来 15			
237	津山市加茂 11	285			徳島		四万十町窪川 15		333			徳島		天城町 12			
238	浅口市奇島	286				北九州	柳川市大和		334				徳島	南さつま市坊津 10			
239	美作市作東	287					福岡	宗像市玄海	335					徳島	与論町 14		
240	井原市井原 12	288		福岡				宮若市宮田	336		徳島				奄美市笠利		
241	奈義町 13	289	福岡					みやこ町犀川	337	徳島					名護市		
242	瀬戸内市長船	290			福岡			大任町				徳島					
243	瀬戸内市邑久 16	291				福岡		築上町築城 10					徳島				

※ 赤 …10年以上連続特A 橙 …9年連続特A 茶 …8年連続特A 【評価期間】 2022年4月1日～2023年3月31日

■ 「A評価」海洋センター 56カ所

No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名	No. ブロック	道府県	センター名																										
1	北海道	せたな町	15	北陸	福井	29	近畿	神河町神崎	43	四国	高知	東洋町																									
2	北海道	枝幸町歌登	16	長野	飯田市南信濃	30		中部	丹波篠山市	44	北九州	福岡	みやま市高田																								
3	青森	十和田市	17		飯田市	31			奈良	丹波市山南			45	鹿児島	飯塚市穂波																						
4	岩手	盛岡市玉山	18		山形市	32				和歌山			丹波市波賀		46	南九州	鹿児島	みやま市瀬高																			
5		九戸村	19		松本市四賀	33							鳥取		山添村			47	鹿児島	福智町金田																	
6	宮城	仙台市泉	20		恵那市明智	34									島根			菅爾村		48	鹿児島	築上町椎田															
7		秋田	21		高山市国府	35												岡山		広川町		49	鹿児島	宮崎	日南市南郷												
8	福島	湯沢市	22		恵那市山岡	36														香川		倉吉市関金		50	鹿児島	南九州市知覧											
9		本宮市白沢	23		富士宮市芝川	37																徳島		西ノ島町		51	鹿児島	薩摩川内市樋脇									
10	栃木	鹿沼市粟野	24		浜松市天竜	38																		愛媛		浅口市鴨方		52	鹿児島	南大隅町佐多							
11	新潟	阿賀町津川	25		いなべ市大安	39																				香川		和気町佐伯		53	鹿児島	志布志市有明					
12		阿賀町上川	26	松阪市飯高	40	徳島																						三豊市高瀬		54		鹿児島	薩摩川内市上甕				
13	富山	上市町	27	京都	京丹波町和知																							41		愛媛			三豊市財田	55	鹿児島	本部町	
14	石川	七尾市	28	大阪	能勢町																							42					愛媛	今治市大三島		56	鹿児島

【評価期間】 2022年4月1日～2023年3月31日

2022年度海洋センター評価について

B&G財団では、全国の海洋センターの現状を把握し、効率的な支援を行うため、2003年度から「海洋センター評価」を実施しております。

この評価は年1回、各海洋センターから提出された運営状況資料等に基づき、「海洋センター利用者人数」、「財団事業の実施状況」、「B&G指導員の配置状況」など、総合的に査定し、決定するものです。

特に顕著な実績があり、良好な海洋センター運営が図られている優良海洋センターを「特A」、続いて「A」「B」「C」「D」「E」までの6段階に分けて「評価」しています。（各評価の内訳は下記グラフのとおり）

「評価」を導入した2003年度当時は、「特A」の海洋センターは滝川市の1センターのみでしたが、首長様をはじめ行政執行部の皆様のご理解・ご協力により、2022年度評価では337センターへと大幅に向上しております。

I 海洋センター評価 5か年の推移

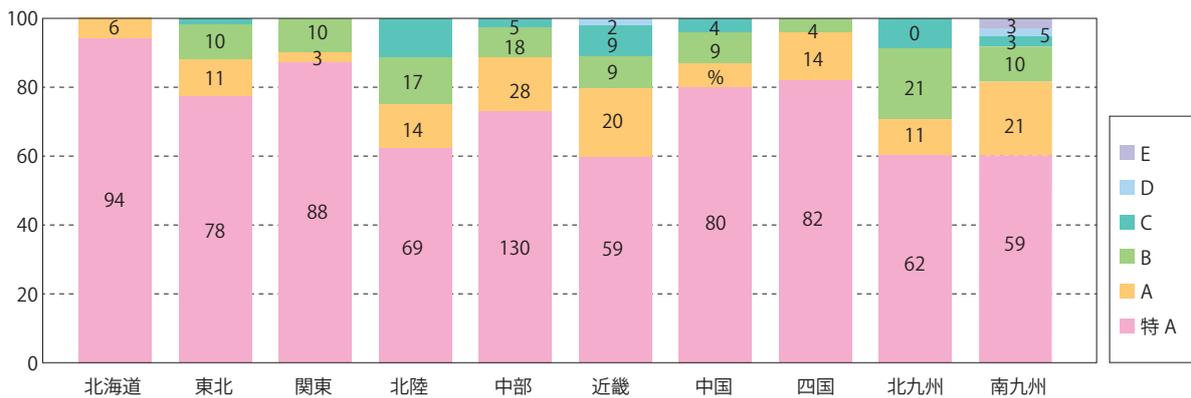
評価名	2018年度評価	2019年度評価	2020年度評価	2021年度評価	2022年度評価
特A	306	304	322	314	337
A	84	92	83	93	56
B	63	57	49	44	47
C	11	7	4	6	18
D	0	1	1	2	2
E	2	4	4	3	2
廃止	10	11	14	15	16

II 2022年度評価の割合

評価名	2022年度評価	
特A	337	70.2%
A	56	11.7%
B	47	9.8%
C	18	3.8%
D	2	0.4%
E	2	0.4%
廃止	16	3.3%

81.9%

III ブロック別 評価内訳



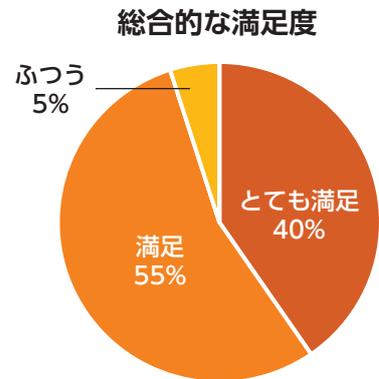
参加者アンケート集計

会議の満足度は95%！

会議終了後に徴収したアンケート調査によると、今回のサミットの総合的な満足度として、回答者361名中343名（95%）が「とても満足」（147名）もしくは「満足」（199名）と答えました。

プログラムごとに見ると、4年ぶりとなった日本財団会長 笹川 陽平氏による特別基調講演『日本の将来 どうあるべきか』について、大多数の参加者が「特によかった」と答えました。

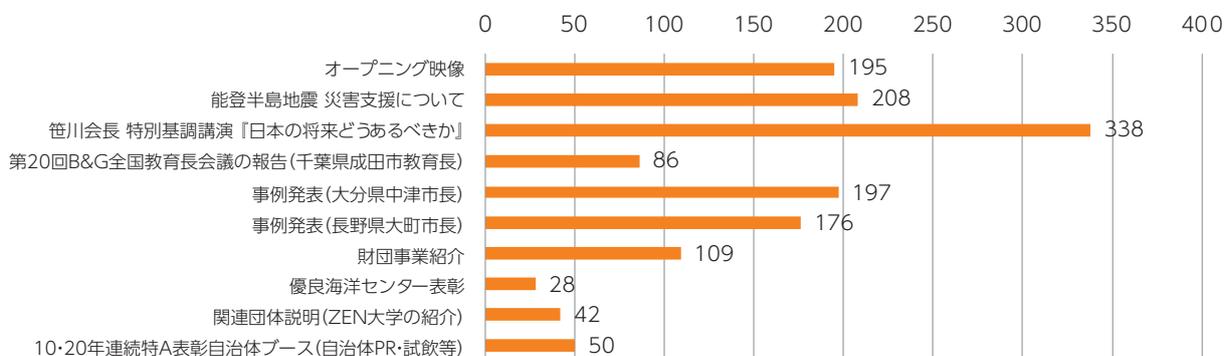
また、大分県中津市と長野県大町市の事例発表についても多くの反響をいただき、大変参考になったとのお声を多数頂戴しました。



【満足度の理由】

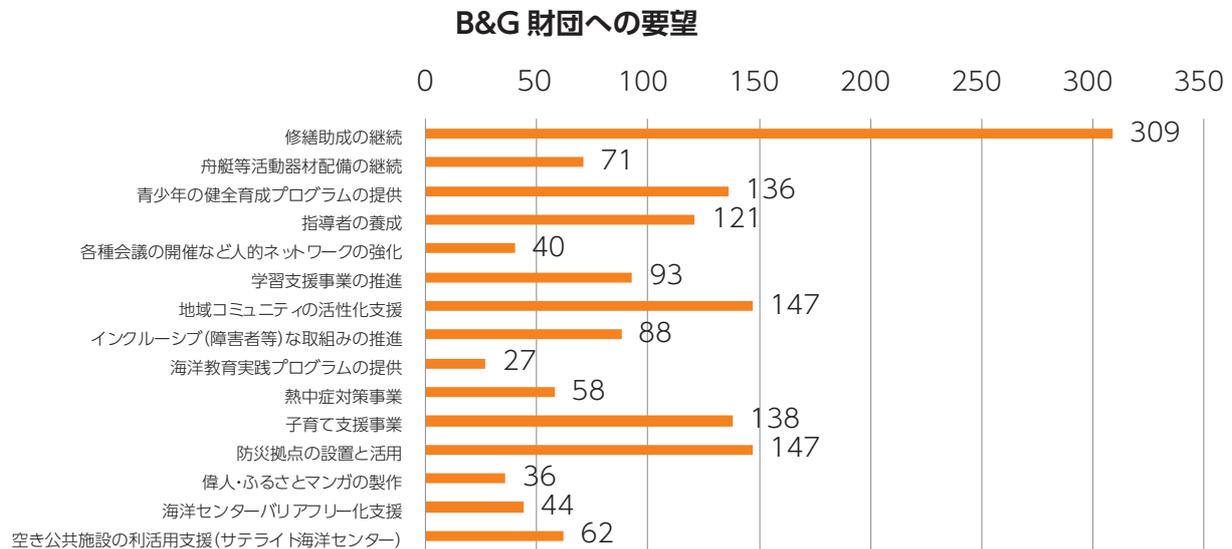
- 笹川会長の時代認識と我々首長への期待に感動した。
- 今回レセプションを中止して能登半島の支援に振り向けたことはとても良い判断だと思った。そういった、より良い行動をとるという判断が信頼性と安心感を生むものだと感心した。
- 財団の想いや方向性が理解できた。
- 今後の当市B&G海洋センターの活用の方向性を考えるいい機会となった。
- 全国の取り組み事例のご紹介や、近隣市町村との短い時間の中で意見交換ができた。この空気を全国の自治体に広げていければいいと思う。
- 特A評価のパネルなどの設置、休憩時間の各自治体紹介など工夫があり感謝している。
- 地震でやむを得ないが情報交換会がなかったのが少し残念に思う。
- 全体的にまとめられ時間的にもマネジメントできていた。
- 人口減少対策に色々なアイデアがある事を考えさせられた。
- 2市の取り組み事例の発表が特に有益で参考になった。今回のテーマが素晴らしい。
- 能登半島地震への素早い対応に感銘した。
- オープニング映像でまず引き込まれ、笹川会長の講演で財団の素晴らしさを感じ、全国の事例発表は我町の取り組み参考となった。
- スタッフの皆さんの対応が素晴らしかった。
- 自治体派遣職員の皆さんの挨拶がとても良かった。

特に良かったプログラム



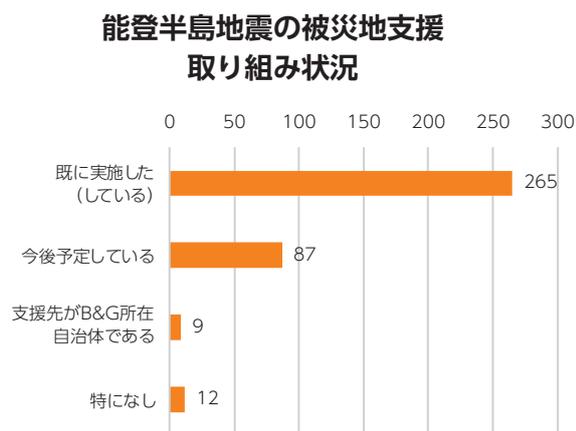
B & G財団への要望

「修繕助成事業」については、引き続き高い要望が挙げられ、老朽化した施設を維持するために必要不可欠な事業であることが明確となりました。次いで、地域コミュニティの活性化や防災拠点の設置と活用、青少年の健全育成プログラム等についても要望が高いことが確認できました。2023年度より新たな5か年計画を策定し、今後のさらなる事業の充実を図るため、皆様のご意見を真摯に受け止め、取り組んで参ります。



能登半島地震における被災地支援の状況

元日に発生した「令和6年能登半島地震」における被災地支援については、75%の自治体がすでに自治体として支援を実施していることが分かりました。主な支援内容としては義援金をはじめ、専門的な人材の派遣や仮設トイレ・移動式シャワー等の物資提供などが挙げられました。B & G財団としても、全国383自治体との繋がりを存分に生かし、今回立ち上げた「B & Gフレンドシップ Project 2024」をはじめ、今後も様々な支援の在り方を模索してまいります。



【被災地支援に対するご意見等】

- すばやい対応、日頃の賜物と思います。「柔軟かつ迅速に」「身の丈に合った」…印象に残りました。
- 村単独では、できることが限られると思いますが、支援プロジェクトなど、協力できればと思います。
- 全国的な組織力を生かして活動内容や人材派遣など計画的に全施設からの支援が実現できると素晴らしい。
- 被災地支援は現地の情報をまとめ、現地の受け入れ体制と連動した支援が必要と考えており、B & G財団のコントロールに期待しております。
- 未来のある子ども達が明るく元気に前に進めるよう教育に関わった支援もできたらいいなと思います。
- 災害時等相互支援による被災地支援は誠に心強い取り組みであると感じています。募金等の呼びかけをいただいておりますので皆さんと共有し、思いを共にして参りたいです。

第16回「B&G 全国サミット」ご出席市町村長

全国461海洋センターが所存する383市町村から243名の首長の皆様にご出席いただきました。

◆北海道ブロック



北海道 愛別町 町長
矢部 福二郎 様



北海道 芦別市 市長
荻原 貢 様



北海道 浦臼町 町長
川畑 智昭 様



北海道 遠別町 町長
笹川 洸志 様



北海道 下川町 町長
田村 泰司 様



北海道 岩見沢市 市長
松野 哲 様



北海道 剣淵町 町長
早坂 純夫 様



北海道 古平町 町長
成田 昭彦 様



北海道 厚岸町 町長
若狭 靖 様



北海道 砂川市 市長
飯澤 明彦 様



北海道 室蘭市 市長
青山 剛 様



北海道 斜里町 町長
山内 浩彰 様



北海道 小平町 町長
関 次雄 様



北海道 沼田町 町長
横山 茂 様



北海道 上富良野町 町長
斉藤 繁 様



北海道 新篠津村 村長
石塚 隆 様



北海道 石狩市 市長
加藤 龍幸 様



北海道 大空町 町長
松川 一正 様



北海道 大樹町 町長
黒川 豊 様



北海道 鷹栖町 町長
谷 寿男 様



北海道 秩父別町 町長
澁谷 信人 様



北海道 東神楽町 町長
山本 進 様



北海道 苫前町 町長
福士 敦朗 様



北海道 美幌町 町長
平野 浩司 様

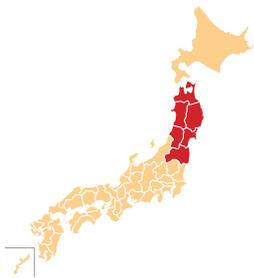


北海道 北竜町 町長
佐野 豊 様



北海道 和寒町 町長
奥山 盛 様

◆東北ブロック



青森県 中泊町 町長
濱舘 豊光 様



青森県 平川市 市長
長尾 忠行 様



青森県 六戸町 町長
吉田 豊 様



岩手県 一関市 市長
佐藤 善仁 様



岩手県 大船渡市 市長
瀧上 清 様



岩手県 八幡平市 市長
佐々木 孝弘 様



岩手県 洋野町 町長
岡本 正善 様



宮城県 加美町 町長
石山 敬貴 様



宮城県 栗原市 市長
佐藤 智 様



宮城県 松島町 町長
櫻井 公一 様



宮城県 川崎町 町長
小山 修作 様



宮城県 蔵王町 町長
村上 英人 様



宮城県 大郷町 町長
田中 学 様



宮城県 大崎市 市長
伊藤 康志 様



宮城県 登米市 市長
熊谷 盛廣 様



宮城県 涌谷町 町長
遠藤 稔雄 様



宮城県 巨理町 町長
山田 周伸 様



秋田県 にかほ市 市長
市川 雄次 様



秋田県 湯上市 市長
鈴木 雄大 様



秋田県 大湯村 村長
高橋 浩人 様



秋田県 八郎潟町 町長
畠山 菊夫 様



秋田県 由利本荘市 市長
湊 貴信 様



山形県 舟形町 町長
森 富広 様



福島県 小野町 町長
村上 昭正 様



福島県 田村市 市長
白石 高司 様



福島県 塙町 町長
宮田 秀利 様



福島県 柳津町 町長
小林 功 様

◆関東ブロック



茨城県 かすみがうら市 市長
宮嶋 謙 様



茨城県 五霞町 町長
知久 清志 様



茨城県 行方市 市長
鈴木 周也 様



茨城県 常陸太田市 市長
宮田 達夫 様



茨城県 石岡市 市長
谷島 洋司 様



茨城県 北茨城市 市長
豊田 稔 様



栃木県 さくら市 市長
花塚 隆志 様



栃木県 下野市 市長
坂村 哲也 様



栃木県 那須烏山市 市長
川俣 純子 様



栃木県 芳賀町 町長
大関 一雄 様



群馬県 みなかみ町 町長
阿部 賢一 様



群馬県 板倉町 町長
栗原 実 様



群馬県 明和町 町長
富塚 基輔 様



埼玉県 吉見町 町長
宮崎 善雄 様



埼玉県 久喜市 市長
梅田 修一様



埼玉県 幸手市 市長
木村 純夫様



埼玉県 松伏町 町長
鈴木 勝様



埼玉県 神川町 町長
櫻澤 晃様



埼玉県 白岡市 市長
藤井 栄一郎様



埼玉県 嵐山町 町長
佐久間 孝光様



千葉県 いすみ市 市長
太田 洋様



千葉県 横芝光町 町長
佐藤 晴彦様



千葉県 鋸南町 町長
白石 治和様



千葉県 御宿町 町長
石田 義廣様



千葉県 香取市 市長
伊藤 友則様



千葉県 成田市 市長
小泉 一成様



千葉県 大多喜町 町長
平林 昇様



千葉県 長南町 町長
平野 貞夫様

◆北陸ブロック



新潟県 燕市 市長
鈴木 力様



新潟県 佐渡市 市長
渡辺 竜五様



新潟県 糸魚川市 市長
米田 徹様



新潟県 胎内市 市長
井畑 明彦様



新潟県 南魚沼市 市長
林 茂男様



富山県 砺波市 市長
夏野 修様



富山県 富山市 市長
藤井 裕久様



福井県 あわら市 市長
森 之嗣様



福井県 永平寺町 町長
河合 永充様



福井県 越前町 町長
青柳 良彦 様



福井県 若狭町 町長
渡辺 英朗 様



福井県 勝山市 市長
水上 実喜夫 様



福井県 大野市 市長
石山 志保 様

◆中部ブロック



山梨県 甲斐市 市長
保坂 武 様



山梨県 山梨市 市長
高木 晴雄 様



山梨県 中央市 市長
望月 智 様



山梨県 南アルプス市 市長
金丸 一元 様



長野県 下條村 村長
金田 憲治 様



長野県 山形村 村長
本庄 利昭 様



長野県 上松町 町長
大屋 誠 様



長野県 大町市 市長
牛越 徹 様



長野県 中野市 市長
湯本 隆英 様



長野県 白馬村 村長
丸山 俊郎 様



岐阜県 飯島町 町長
唐澤 隆 様



岐阜県 富士見町 町長
名取 重治 様



岐阜県 可児市 市長
富田 成輝 様



岐阜県 恵那市 市長
小坂 喬峰 様



岐阜県 御高町 町長
渡辺 幸伸 様



岐阜県 川辺町 町長
佐藤 光宏 様



岐阜県 中津川市 市長
小栗 仁志 様



岐阜県 八百津町 町長
金子 正則 様



岐阜県 富加町 町長
板津 徳次 様

第16回「B&G全国サミット」



静岡県 掛川市 市長
久保田 崇 様



静岡県 松崎町 町長
深澤 準弥 様



静岡県 川根本町 町長
藺田 靖邦 様



静岡県 磐田市 市長
草地 博昭 様



愛知県 新城市 市長
下江 洋行 様



愛知県 西尾市 市長
中村 健 様



愛知県 東栄町 町長
村上 孝治 様



愛知県 豊川市 市長
竹本 幸夫 様



三重県 いなべ市 市長
日沖 靖 様



三重県 伊賀市 市長
岡本 栄 様



三重県 亀山市 市長
櫻井 義之 様



三重県 志摩市 市長
橋爪 政吉 様



三重県 大紀町 町長
服部 吉人 様



三重県 大台町 町長
大森 正信 様

◆近畿ブロック



滋賀県 近江八幡市 市長
小西 理 様



滋賀県 甲賀市 市長
岩永 裕貴 様



滋賀県 高島市 市長
福井 正明 様



滋賀県 多賀町 町長
久保 久良 様



滋賀県 長浜市 市長
浅見 宣義 様



滋賀県 米原市 市長
平尾 道雄 様



滋賀県 野洲市 市長
柏木 進 様



京都府 宮津市 市長
城崎 雅文 様



京都府 京丹波町 町長
畠中 源一 様



京都府 南丹市 市長
西村 良平 様



京都府 和束町 町長
馬場 正実 様



兵庫県 芦屋市 市長
高島 峻輔 様



兵庫県 丹波市 市長
林 時彦 様



兵庫県 香美町 町長
浜上 勇人 様



兵庫県 市川町 町長
津田 義和 様



兵庫県 上郡町 町長
梅田 修作 様



兵庫県 新温泉町 町長
西村 銀三 様



兵庫県 神河町 町長
山名 宗悟 様



兵庫県 丹波篠山市 市長
酒井 隆明 様



兵庫県 淡路市 市長
門 康彦 様



兵庫県 猪名川町 町長
岡本 信司 様



兵庫県 南あわじ市 市長
守本 憲弘 様



兵庫県 養父市 市長
広瀬 栄 様



奈良県 曾根村 村長
芝田 秀数 様



和歌山県 串本町 町長
田嶋 勝正 様



和歌山県 新宮市 市長
田岡 実千年 様

◆中国ブロック



鳥取県 倉吉市 市長
広田 一恭 様



鳥取県 伯耆町 町長
森安 保 様



鳥取県 北栄町 町長
手嶋 俊樹 様



島根県 雲南市 市長
石飛 厚志 様



島根県 江津市 市長
中村 中 様



島根県 浜田市 市長
久保田 章市 様



岡山県 井原市 市長
大舌 勲 様



岡山県 鏡野町 町長
山崎 親男 様



岡山県 新見市 市長
戎 斉 様



岡山県 真庭市 市長
太田 昇 様



岡山県 赤磐市 市長
友實 武則 様



岡山県 浅口市 市長
栗山 康彦 様



岡山県 津山市 市長
谷口 圭三 様



岡山県 奈義町 町長
奥 正親 様



岡山県 矢掛町 町長
山岡 敦 様



岡山県 和気町 町長
太田 啓補 様



広島県 呉市 市長
新原 芳明 様



広島県 坂町 町長
吉田 隆行 様



広島県 三次市 市長
福岡 誠志 様



広島県 東広島市 市長
高垣 廣徳 様



広島県 府中市 市長
小野 申人 様



広島県 北広島町 町長
箕野 博司 様



山口県 周防大島町 町長
藤本 浄孝 様



山口県 長門市 市長
江原 達也 様



山口県 田布施町 町長
東 浩二 様



山口県 萩市 市長
田中 文夫 様

◆四国ブロック



徳島県 海陽町 町長
三浦 茂貴 様



徳島県 東みよし町 町長
松浦 敬治 様



徳島県 徳島市 市長
内藤 佐和子 様



徳島県 那賀町 町長
橋本 浩志 様



徳島県 美波町 町長
影治 信良 様



徳島県 牟岐町 町長
枅富 治 様



香川県 綾川町 町長
前田 武俊 様



香川県 三豊市 市長
山下 昭史 様



香川県 三木町 町長
伊藤 良春 様



香川県 小豆島町 町長
大江 正彦 様



愛媛県 愛南町 町長
清水 雅文 様



愛媛県 鬼北町 町長
兵頭 誠亀 様



愛媛県 久万高原町 町長
河野 忠康 様



愛媛県 今治市 市長
徳永 繁樹 様



高知県 四万十町 町長
中尾 博憲 様



高知県 津野町 町長
池田 三男 様

◆北九州ブロック



福岡県 みやこ町 町長
内田 直志 様



福岡県 みやま市 市長
松嶋 盛人 様



福岡県 宮若市 市長
塩川 秀敏 様



福岡県 川崎町 町長
原口 正弘 様



福岡県 大任町 町長
永原 譲二 様



福岡県 朝倉市 市長
林 裕二 様



福岡県 飯塚市 市長
武井 政一 様



福岡県 福智町 町長
黒土 孝司 様



佐賀県 みやき町 町長
岡 毅 様



佐賀県 鹿島市 市長
松尾 勝利 様



佐賀県 神埼市 市長
内川 修治 様



佐賀県 太良町 町長
永淵 孝幸 様



長崎県 時津町 町長
山上 広信 様



長崎県 南島原市 市長
松本 政博 様



長崎県 平戸市 市長
黒田 成彦 様



大分県 宇佐市 市長
是永 修治 様



大分県 杵築市 市長
永松 悟 様



大分県 玖珠町 町長
宿利 政和 様



大分県 国東市 市長
松井 督治 様



大分県 竹田市 市長
土居 昌弘 様



大分県 中津市 市長
奥塚 正典 様



大分県 日田市 市長
棕野 美智子 様



大分県 由布市 市長
相馬 尊重 様

◆南九州ブロック



熊本県 あさぎり町 町長
北口 俊朗 様



熊本県 宇城市 市長
守田 憲史 様



熊本県 菊池市 市長
江頭 実 様



熊本県 玉名市 市長
藏原 隆浩 様



熊本県 熊本市 市長
大西 一史 様



熊本県 長洲町 町長
中逸 博光 様



熊本県 津奈木町 町長
山田 豊隆 様



熊本県 湯前町 町長
長谷 和人 様



熊本県 南阿蘇村 村長
吉良 清一 様



熊本県 南関町 町長
佐藤 安彦 様



熊本県 美里町 町長
上田 泰弘 様



宮崎県 宮崎市 市長
清山 知憲 様



宮崎県 日南市 市長
高橋 透 様



鹿児島県 いちき串木野市 市長
中屋 謙治 様



鹿児島県 さつま町 町長
上野 俊市 様



鹿児島県 奄美市 市長
安田 壮平 様



鹿児島県 長島町 町長
川添 健 様



鹿児島県 天城町 町長
森田 弘光 様



鹿児島県 南さつま市 市長
本坊 輝雄 様



鹿児島県 南九州市 市長
塗木 弘幸 様



鹿児島県 南大隅町 町長
石畑 博 様



鹿児島県 湧水町 町長
池上 滝一 様



鹿児島県 与論町 町長
田畑 克夫 様



沖縄県 うるま市 市長
中村 正人 様



沖縄県 名護市 市長
渡具知 武豊 様

第16回「B&G全国サミット」参加首長感想（一部抜粋）

○北海道 古平町 町長 成田 昭彦 様

例年のことながら、全国サミットでの財団職員皆様方の気配りに感謝いたします。私どもも、町主催のイベントでは見習うべきことがたくさんあり、早速課長会議において情報共有させていただきました。また、笹川会長の基調講演を楽しみにしていましたが、今回はリーダーとは何ぞやということを改めて考えさせられました。今後も海洋センターを活用した健康づくりを推進して参りますので、ご指導ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

○北海道 室蘭市 市長 青山 剛 様

特別基調講演で、日本の文化や伝統などに触れ、日本人としての誇りを考えさせていただき、次世代に向けた人材育成の大切さの認識を改めて強めることが出来ました。

また、全国の活動事例から、全国の自治体の盛り上がりを感じ、今後の本市の施策整備の参考になることがありました。今後ともご支援、宜しく申し上げます。

○北海道 斜里町 町長 山内 浩彰 様

この度、「B&G全国サミット」に出席させて頂き、全国各地から多くの自治体が参集し、日本の未来、そしてそれを担う子ども達の事を思う場となっている事に感嘆しました。

笹川会長の特別基調講演を拝聴する機会を得て、改めて地域の文化や伝統を継承しつつ、新たな感性でまちづくりをして行く大切さを感じたところです。

今回のサミットで発表された事例を参考に、我が町の海洋センターの更なる可能性、活用に向け想像力を働かせて歩みを進めて行きたいと思えます。

○北海道 大樹町 町長 黒川 豊 様

初めて参加させて頂きました。笹川会長の基調講演に感銘し、国際社会の中の日本の立ち位置を常に理解していることがまちづくりに対して肝要であると思えました。

多くの全国市町村が仲間としてつながっていることを実感しました。

○北海道 鷹栖町 町長 谷 寿男 様

笹川会長のご講演を毎回楽しみにしております。B&G財団設立の原点である「子どもたちの心身の健全育成」を地方から始められ、指導者の育成や青少年育成プログラム、防災事業、被災地支援など多岐にわたる活動を50年間積み上げられてきた職員の皆様のご労苦に感謝と敬意を表します。今後も「次の世代を背負う若者をどう育てるのか」を町全体、大人全体で「自信と覚悟」をもって考え、行動できるリーダーとなりたいとあらためて認識しました。貴重なご講演ありがとうございました。

○秋田県 潟上市 市長 鈴木 雄大 様

笹川会長の講演を直接聴き、大変感銘を受けました。また、大分県中津市、長野県大町市の取組事例の発表については、B&G海洋センターの今後の在り方、活用について大いに参考となりました。

○千葉県 いすみ市 市長 太田 洋 様

笹川会長さんの日本の将来について、特に感動しました、まさにお話のとおりです。今、日本が未来に向けてどう国を作るか、と真剣に考える時が来ました。この事を胸に、地元に戻り市制に努力したい。B&G財団からの支援に感謝しています。

○福井県 大野市 市長 石山 志保 様

今回も多くの地域課題を抱えながらも前向きに取り組まれている自治体の首長、副首長、教育長などの皆様にふれあうことができ、私自身も勇気と元気をいただきました。ご発表を聞いていますと、本市の海洋センターですぐにでも取り入れられるアイデアをお聞きできたとわくわくしております。

笹川会長もお変わりなくお元気で確かなメッセージを送ってください、ありがとうございました。新たなチャレンジとして人材育成、大学づくりにお取組になられるとのことでデジタルを活かしての大学づくりに今の時代を先取りされているものと感じました。

冒頭10分前からのビデオメッセージ、素晴らしい出来栄で気分が高揚されました。人口減少、少子高齢化など出てくるテロップ課題解決はミッションインポッシブルかもしれませんが、首長の皆さまとB&G財団の方々と力をあわせて少しでも立ち向かっていけたらと思います。今後ともよろしく願いいたします。

○長野県 大町市 市長 牛越 徹 様

北陸新幹線沿線の市町村等が出席の手段を奪われる中、サミットが開催されたことに大きな意義があったと考えます。能登半島地震について、B&G財団の積極的な支援策が発表され、更にこれまでに取り組まれている防災拠点整備などが紹介されました。こうした財団のお取り組みは被災地の皆様の復興への大きな応援になりますとともに、出席の自治体からの支援が広がることを祈念いたします。

○長野県 飯島町 町長 唐澤 隆 様

笹川会長の基調講演の中で、『人材育成』のお話しが、大変感銘を受けました。地域でも青年会議所と連携して『人づくりはまちづくり』を合言葉に人材育成を進めたいと思います。

○愛知県 新城市 市長 下江 洋行 様

13年連続の特Aの表彰をいただき心より感謝いたします。事例発表では、自治体の工夫ある取組が紹介され、特に大町市の移住人口増加の事例説明は説得力がありました。

引き続き海洋センターのスタッフと共に力を合わせ、事業を充実させてまいりたいと考えています。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

○滋賀県 多賀町 町長 久保 久良 様

今後とも多くの住民の皆様に愛され親しまれ、利活用される施設になるよう努めてまいります。財団の皆さまのご指導ご支援よろしくお願い申し上げます。

○京都府 京丹波町 町長 富中 源一 様

毎回素晴らしいサミットであると思います。笹川会長の特別基調講演は情熱のこもったもので感銘を受けました。事例発表も大変参考になりました。ありがとうございました。

○兵庫県 上郡町 町長 梅田 修作 様

笹川会長の基調講演や海洋センターの取り組みを直接聞くことができ、大変参考になります。特A評価のパネルや、休憩時間の各自治体紹介なども工夫があり感謝しています。

○兵庫県 神河町 町長 山名 宗悟 様

毎回楽しみにしているのが、笹川会長の特別基調講演です。

何故かという世界各国での活動の中で世界の現状から日本を見た中での問題意識についての講演はいつも目からウロコの内容で納得させられます。今回は「日本の将来どうあるべきか」でしたが、地球温暖化による気候変動や毎年発生する地震などに対する為の今後の人材育成、イノベーションをどう生み出すか、その為には信念、自信と覚悟をもってビジョンを打ち出し、これからの地域、日本を創造する力が必要である。こういう内容について元気をいただきました。有難うございました。

○島根県 江津市 市長 中村 中 様

様々な事例を知ることが出来て非常に参考になりました。B&Gの強い思いを全国の自治体の皆さんと共有でき、とても心強く感じました。今後ともよろしくお願いします。

○山口県 周防大島町 町長 藤本 浄孝 様

周防大島町17年という栄誉を大切に先人の皆さんに感謝し、自信と勇気を持って地域づくりに邁進して参りたいと思いを新たに致しました。笹川会長の基調講演も我々が頑張るべきと大きな刺激をいただきました。町民の生活を見つめることが日本を創るということを受けとめて実行して参ります。

○徳島県 海陽町 町長 三浦 茂貴 様

全国の自治体の首長や教育長が集まり、同じ目的を持って事業を展開していくような会はこの「B&G全国サミット」以外はないと思います。様々な取組の提案だけではなくそれに対する予算もしっかりと付けて頂けるので、我々のような小さな自治体が今までやりたくてもできなかった事業をすることが可能になり住民も喜んでおります。

本当にありがとうございました。海洋センターの方も10年連続特A目指して頑張ります。

○愛媛県 愛南町 町長 清水 雅文 様

笹川会長の迫力ある講演に聞き入りました。日本古来の本当の武士道にふれた気持ちで嬉しく思いました。気骨のある青少年を育てるのが我々自治体を授かる者の責任であると改めて勉強になりました。ありがとうございました。

○高知県 四万十町 町長 中尾 博志 様

海洋センター所在市町村との皆さんとの交流、情報交換や各地の新しい取り組み事例等について情報収集できました。海洋センターを活用した関係人口UPの取組や移住につながる取組を研修できたこともふまえ、我が町も四万十川の水域を活用したマリンスポーツの展開と交流、移住、ふるさと教育の推進を展開していきたいと考えています。こうした機会をいただけて感謝申し上げます。

○福岡県 みやま市 市長 松嶋 盛人 様

本会の「B&G全国サミット」では、笹川会長様の基調講演で日本が世界の中で「ゆでかえる」現象を述べられたことについて、全くの同感でございます。

世界情勢が動乱に向かっている中で我々が今何を為すべきか、何を考えておくべきかと危機意識を持つこと。また、アンケートを基に青少年の育成にもっと力を注ぐ必要があることを提起され、今後、さらに青少年育成に力を注ぐことを肝に命じました。

事例発表では、素晴らしい取り組みが発表され、大変参考になりました。今後、本市の参考にさせていただきます。

○福岡県 飯塚市 市長 武井 政一 様

笹川会長の特別基調講演では、グローバル化が進む中、日本は様々な分野でイノベーションや社会変革が遅れている。そのような状況の中で、自治体の首長は未来のために地域や社会組織を変革（イノベーション）させるために自らの信念と覚悟をもって、リーダーシップを発揮する必要があるという趣旨のお話は大変な気づきを与えていただきました。ありがとうございました。

○大分県 中津市 市長 奥塚 正典 様

事例発表をさせていただいた中で、多くの自治体が過疎化の中で悩んでいる様子が感じられました。B&G財団の存在が大きいこと、また新しい地方ニーズにも耳を傾ける財団の考え方に感謝します。

○佐賀県 鹿島市 市長 松尾 勝利 様

初めて出席しましたが、多くの自治体が参加され、盛大に開催されており、感銘を受けました。また、全国の事例や笹川会長の基調講演を直接聞く事ができ、参考になると共に刺激になりました。共通の課題に皆で取り組むことは大切だと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

○熊本県 長洲町 町長 中逸 博光 様

「日本の将来どうあるべきか」笹川会長の特別基調講演を聴き、18歳の青少年の思いが世界の中で最低であることに大いに不安を感じました。偏差値中心主義が今の人間育成の大きな弊害となっているという会長の考え方は大賛成です。これをなくしていかなければ将来の日本はないと言われました。これから日本財団やB&G財団と一緒に取り組んでいきます。

○熊本県 津奈木町 町長 山田 豊隆 様

笹川会長の特別基調講演はいつも有益で、ためになる情報が多く感謝しています。また、全国のB&G関係者が一同に会する事は意思統一ができるため、非常に有意義だと感じております。

○熊本県 あさぎり町 町長 北口 俊朗 様

全国の自治体で急激な人口減少に歯止めをかけることが重要な課題となっている中、子育て支援や交流関係人口の拡大に関する取り組みの事例を公表していただいたので、参考にさせていただきます。

○宮崎県 日南市 市長 高橋 透 様

笹川会長の特別基調講演は大変興味深く聞かせていただきました。特に低所得世帯の子どもの学びを支援する通信制の大学を増設される事業はすばらしいことだと思います。

次回も機会がありましたら笹川会長の講演をお聞きしたいと思います。

○鹿児島県 奄美市 市長 安田 壮平 様

本年も「B&G全国サミット」を開催していただき、誠にありがとうございます。ご盛会を心よりお喜び申し上げます。

能登地震での被災自治体・施設の情報共有ありがとうございました。被災を受けた施設も、地域の皆様の拠り所として活用されていることを知り、とても心強く感じました。私どもも義援金、物資、職員派遣などの支援をさせていただきます。

笹川会長のご講演は、大きな危機感や問題意識を感じさせる、警鐘を鳴らすものと感じました。若い世代に希望をもってもらえるための国づくり、地域づくりが大事ですし、その具体的な取り組みとしての新たな大学の創設は、感銘を受けました。

中津市・大町市の事例発表もとても参考になりました。海洋センターのさらなる活用による、関係人口増加や地域活性化の取り組み、自分事として考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

○鹿児島県 南大隅町 町長 石畑 博 様

B&G財団の取り組み支援は町民にも大きく評価して頂いております。地域密着型の財団の取り組みを、これからも是非活用させていただきますよう宜しくお願いします。今回の第16回全国サミットに出席出来て大変良かったです。職員派遣にも興味が高まりました。

第16回「B&G 全国サミット」 参加副首長感想（一部抜粋）

○北海道 長万部町 副町長 佐藤 英代 様

町長の代理で出席させていただきましたが、笹川会長の基調講演や事例発表など、皆様の取り組みについて大変参考になりました。ありがとうございました。

○福井県 坂井市 副市長 新開 和典 様

初めて参加させて頂きました。全国から300余の自治体から総勢700名余の参加を得て盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。日頃から大変ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。お陰様で9年連続特Aの評価を頂きました。引き続き努力して参ります。

○愛知県 清須市 副市長 葛谷 賢二 様

笹川会長の基調講演を聞いて将来を担う子どもたちが目標や自覚を持てるような地域社会を創成していく必要があるということを確認できました。資源のない国にとって人材の育成が必要であるため、地域のリーダー、日本のリーダーを育成できる地域社会づくりに努めます。

○三重県 菟野町 副町長 大橋 裕之 様

財団としての災害支援を具体的に説明されたことや笹川会長の次世代育成の根拠をもってビジョンを説明されたことは大変良く、笹川会長の次世代育成方針に賛同いたします。また、ハード施設の整備だけでなく、ソフト事業、人材育成、子どもの支援、災害支援にご尽力を頂いていることに感謝申し上げます。

○鹿児島県 阿久根市 副市長 福島 浩 様

日常ではなかなか聞くことのできない大局観に立った話を聞くことができ、勉強になりました。また、各自治体の事例発表では、ハード、ソフトの両面から実践事例を聞くことができ、刺激を受けることができました。ありがとうございました。

○鹿児島県 薩摩川内市 副市長 永田 一廣 様

昨年に引き続き参加させていただきました。

人口減少等の課題を抱える地方都市において、明確なビジョンをもって知恵を出しながら、地域活性化に努力される取組みに感銘しました。

海洋センター等を資源とし、地域発展に尽力されていることに敬意を表し、当市のまちづくりの参考にもしていきます。B&G財団の各種事業の継続と充実を要望するとともに、財団の発展をお祈りいたします。誠にありがとうございました。

第16回「B&G全国サミット」参加教育長感想（一部抜粋）

○北海道 愛別町 教育長 馬場 信明 様

昨年に続いての参加でしたが、今年も充実した内容で大変勉強になりました。ありがとうございました。特に笹川会長の基調講演については、多様な視点、世界的な視点をもって将来の在り方を考えていく機会となったほか、2自治体の事例発表は今後の運営について様々なヒントをいただくことができました。全国規模の集まりということで先進的な取り組みや視点の広い考え方にふれることができ刺激になっております。今後共有した情報を持ち帰って自分の住む地域に生かしていきたいと考えております。ご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

○北海道 斜里町 教育長 岡田 秀明 様

日頃から当町の海洋センター施設の運営等に多大なるご支援をいただき心から感謝申し上げます。今年もB&G全国サミットに参加させていただき、他自治体の先進的な取組事例等、有益な情報を得ることができました。とりわけ、笹川会長の特別基調講演は、その説得力、スケールの大きさ、大きな視点の大切さなど学ぶべき点が多く、今回も大変感銘を受けました。貴重な機会をいただきましたことに改めて感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

○北海道 新篠津村 教育長 荒谷 順一郎 様

1月1日に能登半島での大地震が起きました。まだまだ復旧の道のりが険しい中、いち早く災害支援を表明したB&G財団の皆様の姿勢に感動を覚え、しっかりとしたビジョンを持って前向きに取り組んでいくことが各自治体に求められていると実感しました。

また、どの事例発表も素晴らしく、大変参考になるものばかりでした。

本日の全国サミットで学んだことを持ち帰り、日々の活動につなげて参る所存です。ありがとうございました。

○青森県 十和田市 教育長 丸井 英子 様

B&G全国サミットに出席しますと毎回背筋がピンと伸びます。

笹川会長のご講演でありました「世界の中で日本が置かれている立場」について、日々、目の前の課題に追われている自身の視野の狭さ、意識の甘さを深く反省するとともに未来を担う子どもの教育の中に笹川会長のご講演を取り入れていかなければならないと思いを強く致しました。日本の未来に希望をもてる子どもたちを育成するにはスポーツ環境をはじめとして、地域の人材や自然資源を活用した各種交流事業が大切であると考えます。

事例発表も参考にしながら、夢、希望、志の実現に向けてたくましく生きていける子どもたちの育成に努めて参ります。本日はありがとうございました。

○青森県 六戸町 教育長 瀧口孝之 様

笹川会長の基調講演をはじめ、二自治体からの事例発表は大変示唆に富んだものであり有意義な情報を得られました。

とりわけ、笹川会長からは、日本の現状、課題、目指すべき方向性が示され、とても参考になりました。また、各種報告についてもそれぞれの活動の積極的な取り組みの様子が伺われました。最後にB&G財団様には日頃から大変お世話になっておりますことに感謝とお礼を申し上げますとともに今後とも切によろしくお願い申し上げます。

○秋田県 湯上市 教育長 工藤 素子 様

久しぶりに拝聴できた笹川会長の御講話では「組織のトップとしての自信と覚悟・勇気」の重要性を熱く語られ、地域活性化へ力強く背中を押していただきました。

事例発表では、様々な関係機関との連携によって生み出されるwin-winの関係性の具体例を知り大変参考になり、何よりも、元日の能登半島地震の現地の被害状況と迅速な支援の進捗を報告していただいたことに感銘を受け、支援の輪が全国に広がる契機につながったと感じました。

○福島県 柳津町 教育長 神田 順一 様

笹川会長の特別基調講演の中で「自信と勇気をもって」「信念と覚悟を持ったリーダーが必要」などの言葉が心に響き、元気が出ました。本当にありがたかったです。

観光地である本町ではありますが、特に20歳代の来場者をどう増やすか等が大きな課題であり、海洋センターを生かした関係者人口UPの事例発表も大変参考になりました。

○群馬県 みなかみ町 教育長 田村 義和 様

笹川会長の基調講演は、日本人としての誇りと自覚を強くしてください。今回は日本の将来に向けて覚悟を持って取り組んでいかなければならないことを改めて強く自覚させられました。教育行政の責任者として、目の前の子どもたちが夢と誇りを持って、未来を切り開いて行けるよう探究的、体験的教育活動に力を入れていきたいと思いました。

○千葉県 成田市 教育長 関川 義雄 様

大分県中津市、長野県大町市の事例発表で地域環境や特性を生かした積極的なまちづくりを紹介していただき、感銘を受けました。笹川会長のご講演にもありました「知識を持った人は行動しなければならない」「自信と覚悟をもって仕事をする」の言葉通りの内容であると感じました。本日頂いた刺激を基にさらに充実した「まちづくり」に寄与することができるよう努めてまいりたいと思います。

○三重県 熊野市 教育長 倉本 勝也 様

全国サミットには初の参加でありましたが、財団の目指す方向は、常に現代社会の課題に即したものであり、自治体としても非常に参考になるものでありました。

財団の運営方針や事業等に触れ、本自治体の取組を今一度確認する機会となりました。

○島根県 浜田市 教育長 岡田 泰宏 様

基調講演で、教育や人づくりに向けたパワーをいただきました。様々な地域課題の解決には、時間がかかっても教育の充実が欠かせないと考えます。

○岡山県 鏡野町 教育長 武本 吉正 様

能登半島地震の状況と支援の対応について、B&G財団としてすべきことを明確に実施されていることに改めて感銘を受けました。

笹川会長の基調講演を拝聴し、財団の歴史と信念に基づく活動、取組みについて覚悟を感じました。財団の基本理念がぶれることなく、脈々と受け継がれてきた重みを感じることができた全国サミットでした。

○愛媛県 久万高原町 教育長 小野 敏信 様

全体を通じて、B&Gとしての強いメッセージを受け取りました。災害支援を始め、財団の事業そのものに地域を活性化させる「力」をいただいています。笹川会長の基調講演では、経団連や連合を一刀両断に、痛快でした。しかし、その通りと頷き、我が国の方向性を考えることができました。「力」を頂き、上京の甲斐あり。

○高知県 津野町 教育長 久寿 久美子 様

笹川会長のご講演は心に響くものでした。弱い立場の方への配慮や今日の社会の変化の激しいなかで何が大切なのか机上の学習だけでなく、実践体験を通して身に付けるものや感性など、これは今後のAIを中心とした社会において人でなければできないものであり、生まれないものです。私は笹川会長と同じ思いでお話を聴きました。

やはり、実践のみです。そして自分の好きな道をまっすぐに努力し、楽しんで社会を創り上げることは豊かな人間性を築くことにつながると考えます。ぜひ、大学が成長することを願っています。本日は大変よい学習をすることができました。ありがとうございました。

○熊本県 南関町 教育長 谷口 慶志郎 様

笹川会長の基調講演では日本の現状から、日本の将来について歴史の分析等を通して深く考えておられ、私たちがやらねばならない人材育成の明確な方向性を示していただいたこと、とてもありがたく思いました。今後の取り組みの中で、生かさせていただきたいと思っています。

○熊本県 津奈木町 教育長 塩山 一之 様

これまでにB&G財団から様々な助成を頂き、本当にありがとうございます。お陰様で、子どもたちが生き生きと活動できています。

笹川会長の特別基調講演は日本の将来を担う若者をどう育てていくか大きな課題であるとの認識を一層深めました。もちろん、自分自身のこれからの生き方の問題であるとも思っています。本町でも人口減少、少子高齢化が進む中、本日の関係人口UPを目指した海洋センターにおける2自治体の事例発表は取組の視点として参考になりました。

第20回 「B&G全国教育長会議」

2023年11月8日 水

地域の子どもは地域で育てる！

～子どもが主役の部活動改革～

第20回「B&G全国教育長会議」概要

地域の子どもは地域で育てる！

～子どもが主役の部活動改革～

全国44道府県から、教育長ほか過去最多となる268名が出席！

2023年11月8日(水) 東京都中央区のベルサール汐留にて第20回「B&G全国教育長会議」を開催しました。当日は、今年過去最多となる全国44道府県212自治体から教育長202人、代理出席10人など総勢268人の自治体関係者が参加。「地域の子どもは地域で育てる！—子どもが主役の部活動改革—」をテーマに、少子化の進展に伴って学校単位で持続が難しくなっている部活動の地域移行に向けた取り組みや、子ども中心の改革の進め方について考えた。

(◎出席者内訳)

海洋センター関係・・・教育長202名、代理10名、随員56名 計268名

来賓・関連団体等・・・28名 / シンポジスト・・・4名 / 報道関係者・・・3名

第20回「B&G全国教育長会議」次第

日時：2023年11月8日(水) 13:00～17:00

場所：ベルサール汐留

1. 主催者挨拶

2. 来賓挨拶・紹介

3. 正副会長選任・挨拶

4. 導入

『部活動地域移行に関する現状調査』結果報告 B&G財団 海洋センター・クラブ課

5. シンポジウム

「子どもが主役の部活動改革を考える ～新しいブカツのかたち～」

<登壇者>

- | | |
|------------------|--------------------|
| ・長野県飯田市 前教育長 | 代田 昭久 様 (ファシリテーター) |
| ・スポーツ庁地域スポーツ課長 | 橋田 裕 様 |
| ・静岡聖光学院 前学校長 | 星野 明宏 様 |
| ・筑波大学体育スポーツ局 研究員 | 稲垣 和希 様 |
| ・静岡県掛川市 教育長 | 佐藤 嘉晃 様 |
| ・兵庫県南あわじ市 教育長 | 浅井 伸行 様 |

6. B&G財団事業説明

7. B&G全国教育長会議「提言」

8. 総括

主催者挨拶



B&G財団 会長 前田 康吉

B & G財団会長を務めております、北海道滝川市長の前田でございます。

本日は第20回「B & G全国教育長会議」を開催いたしましたところ、公務ご多用のなか、全国から過去最多となる202名の教育長様をはじめ、総勢268名を越える皆様にご出席いただき、心よりお礼申し上げます。

また、日本財団専務理事の前田様をはじめ、日頃から当財団に多大なるご支援を頂いておりますご来賓の皆さまにも多数ご臨席を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度の会議テーマは「**地域の子どもは地域で育てる！ ～子どもが主役の部活動改革～**」でございます。

皆さまご承知のとおり、本年度は、スポーツ庁・文化庁が示す「部活動の地域移行」「改革推進期間」の初年度でございます。各自治体におかれましては、少子化が進む中、子ども達が持続的にスポーツや文化芸術活動に取り組める環境を整えるために、様々な角度から検討や実践を進められていることと思います。当市においても、市内小中学生および保護者・教員に対するアンケートを実施するなど、部署横断的に検討を進めておりますが、子どもファーストな改革を行うためには様々な課題を解決していく必要があると感じております。

そこで、本日は、改革を推進するスポーツ庁地域スポーツ課長の橋田様のほか、異なる立場で部活動改革を進めて来られた方々をお招きし、「**子どもが主役の部活動改革を考える ～新しいブカツのかたち～**」と題したシンポジウムを開催致します。その中で、既に改革を進めておられる自治体教育長様にも、先進事例をご発表頂くことになっておりますので、各自治体における課題を解決していくためのヒントとしては是非持ち帰っていただきたいと思っております。

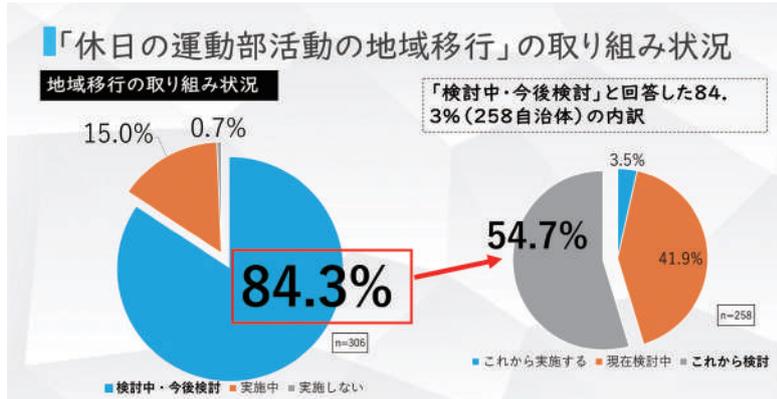
なお、本日は会議の途中および終了後、お飲み物や軽食等を提供させていただきますので、全国の教育長様やシンポジストの皆様方との情報交換の場として有意義にお使い頂ければ幸いです。

終わりに、本日の会議が実り多いものとなることを期待するとともに、B & G海洋センターの積極的活用、そしてB & G財団への引き続きのご理解、ご協力をお願い申しあげ、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

「部活動地域移行に関する現状調査」結果報告

財団より、B&G 所在383自治体の教育長を対象に実施した「部活動地域移行に関する現状調査」（2023年8月実施／有効回答数：307）の結果を報告しました。

回答自治体の約8割がまだ検討の段階にあることのほか、地域移行に向けた最大の課題が「指導者の確保や受け皿となる団体の確保」であること、海洋センターの活用状況や積極活用に向けた課題などを発表しました。



◆有効回答 306 自治体のうち、84.3%が「検討中または今後検討」と回答。この84.3%の258自治体のうち、54.7%の自治体が「これから検討する」段階にあることがわかりました。



◆続いて、今回のこの運動部活動の地域移行に際して、B&G海洋センターとの関わりと活用に向けての課題について結果を発表しました。59の自治体は現在関わっておらず、今後も関わる予定がないとしており、その理由としては、「市内中学校に水泳部がない」、「学校から海洋センターまでの距離が遠い」「学校施設内で対応可能な部活動である」との具体的回答が多くみられました。

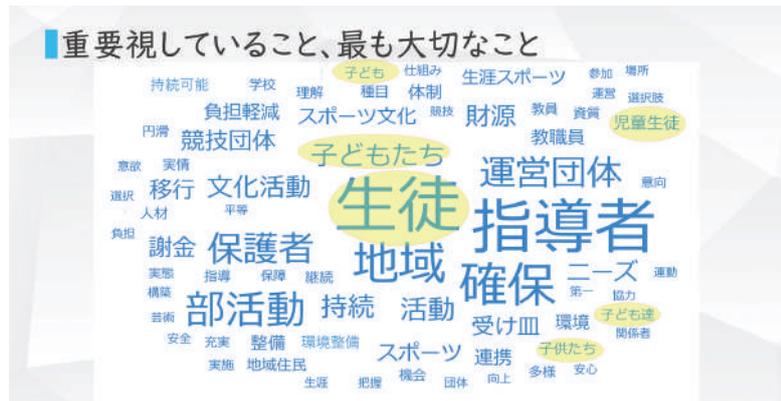


また、部活動の地域移行において、海洋センターを活用するにあたり、課題として挙げられたのが、海洋センターが学校から遠く、移動手段がないという点が圧倒的に多い結果となりました。

以上のように、課題が山積されているようにも思える結果報告となりましたが、その中でも、この地域移行を検討するにあたって、重要視していること、または大切だとお考えのことをお伺いしたところ、各教育長の思いや日頃の業務に当たる姿勢が見えてきました。多くの教育長が、生徒のことを第一に考えてこの地域移行をするべきだと考えていらっしゃる方が多いことが参加者にも共有できました。

最後に、調査結果のまとめをして、次のプログラム(シンポジウム)へ続きました。

回答中に出現頻度の高かった単語を可視化



No.13

「運動部活動の地域移行」において、最も課題だと感じることを1つ選択し、その具体的な内容をご記載ください。

「地域移行」において最も課題と感じること



No.14

No.13の回答の「次」に課題であると感じることについては、

- ① 指導者の確保
- ② 財源の確保
- ③ 運営団体の確保

の順に回答数が多かった。

- ・移動手段
- ・部活動の質の変化
- ・多岐にわたると考える

●傾向と分析●

・「指導者の確保」、「運営団体(受け皿)の確保」、「財源の確保」の3つが、『最も課題に感じること』の次に課題だと感じるものいずれにおいても多くの割合を占めている。
 ・有効回答自治体のうち97%がNo.13、No.14のいずれかから上記3つのいずれかの課題を選択している(上記3つをいずれも選択していないのは3%のみ)。

調査結果のまとめ①

●取り組み状況

8割

『検討中・今後検討』
その中でも半分以上が、『これから』検討する段階

●海洋センターとの関わりと課題

検討中

現在関わっていないが、検討中
→施設の種類により異なる
ex.)水泳部がない...

移動
手段

今後、海洋センターを活用するにあたって、学校から海洋センターまでの距離が遠い。

調査結果のまとめ②

●運営団体

スポ少
地域クラブ

2位 市町村スポーツ協会
3位 総合型スポーツクラブ

●指導者

地域の方
ボランティア

2位 教員
3位 地域の指導者
(民間事業者)

●課題

指導者
確保

2位 運営団体の確保
3位 財源の確保

シンポジウム

「子どもが主役の部活動改革を考える ～新しいブカツのかたち～」

改革を推進するスポーツ庁地域スポーツ課長の橋田氏や、異なる立場で部活動改革を進めて来られた方々をお招きして、「子どもが主役の部活動改革を考える ～新しいブカツのかたち～」と題して「シンポジウム」を実施。

今回は、3つのセッションに分けて行い、各セッションテーマに沿った内容の事例を登壇者に発表していただきながら、各自治体が最も大きな課題と認識する指導者確保などについて、会場を巻き込んだディスカッションが展開されました。シンポジストからは、プロスポーツチームとの連携や効果的に指導者を確保するための方策などが提案される一方、会場からは、独自の施策を行う教育長の取り組み発表もあり、ファシリテーターを務めた元飯田市教育長の代田氏の進行により、活気溢れる議論となりました。

登壇者紹介



代田 昭久 様

●一般社団法人未来地図
代表理事
●長野県 飯田市 前教育長



橋田 裕 様

●スポーツ庁
地域スポーツ課長



星野 明宏 様

●株式会社オフィスホシノ
代表取締役
●静岡聖光学院中学校・
高等学校 前学校長
●東芝プレイブルーバス東京
プロデューサー



稲垣 和希 様

●筑波大学 体育スポーツ局
研究員
●つくば市
部活動改革統括
コーディネーター



佐藤 嘉晃 様

●静岡県 掛川市
教育長



浅井 伸行 様

●兵庫県 南あわじ市
教育長

● SESSION 1 「国の方針と先進事例」

冒頭、ファシリテーターの代田氏より、「何かひとつでも部活動改革のヒントや明日からの改革に向けたエネルギーを受け取っていただければと思います」と挨拶があり、シンポジウム開始。



まず、スポーツ庁の橋田氏より、国の方針「部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備について」を説明。

◆従来の部活動の整備は、生徒のスポーツ・文化芸術に親しむ機会の確保や責任感・連帯感の涵養等が目的にあった。しかし、少子化が進む中、学校単位での運営が困難になってきている。また専門性・意思に関わらず、先生が顧問を務めるという体制は、働き方改革が進む中でより困難になっているという状況だ。

2022年12月に策定したガイドラインでは、新たな地域クラブ活動に関わる運営団体の整備、様々な関係者から成る協議会の設置、質の高い指導者の確保を明記した。

方向性としては、まず休日の環境整備を着実に実施。平日の取り組みについては休日の取り組み状況を検証しながら更なる改革を推進していくという方針だ。新たな地域クラブ活動は、多様な団体が運営団体となるケースが想定されるが、子どもを相手にする活動であり、学校と連携し情報も共有しながら取り組んでもらうイメージとなっている。

部活動の地域移行に向けた実証事業は令和6年度概算要求で27億円を求めており、令和5年度予算から大幅に拡充する。自治体のニーズを調査し、それを踏まえ実証事業を拡充するが、併せて制度的に取り組んでいただけの9都道府県ほどを重点地域に指定し、政策課題への対応を深掘りして推進することを考えている。



「徐々に部活動改革が始まりつつある」というのがスポーツ庁の認識。
実際に、異なるアプローチで改革を進めている2つの自治体と学校現場の事例を紹介。

事例発表① 静岡県掛川市 教育長 佐藤嘉晃氏



◆掛川市は令和8年夏に部活動を廃止する。

「部活動は教育的に意義がある、やめるべきではない」といった声を聞くが、種目は限られ、運動部であれば週4日以上活動が一般的。当然複数の活動に参加することはできない。気軽に参加したいと考えても上位大会に繋がるため、指導者や子どもたちによっては、結果を追い求める雰囲気になってしまう。

また子どもや保護者の期待があれば、それが未経験の種目であっても顧問はその期待に応えようとする。しかし教員は本来、子ども1人1人にしっかり向き合って、生徒支援に力を向けるべきと考えている。

部活動の廃止は、子どものスポーツ文化活動の環境をなくしてしまうのではなく、「変化が激しい時代でも、部活動として持続できるよう新しい形を悩み考え、ともに作ろう」という社会全体へのメッセージだ。

本市は、部活動の自由加入制と共に地域クラブ制度を始めた。部活動の形でなくても子どもが夢中で取り組めるのであれば選択肢となる。ここ一年半で予想を上回る20以上のクラブが誕生し、地域に可能性があることがわかった。全て地域団体で、学校や行政が運営しているのは一つもない。現在学校は教育総務や多岐にわたる業務により、こうした改革を進めていくゆとりがない。だからこそ、改革は学校任せにするのではなく、やはり行政主導で前へ進めていかなければならない。



私は、以前、掛川市のこの取り組みを知り、佐藤教育長の元へ取材に行った。

佐藤教育長が不在の時に部下に話を伺うと、

代田氏：「実際のところ、部活動の廃止、混乱してない？」

掛川市職員：「いいえ、教育長の考えがぶれないので、私たちもぶれるわけにはいきません。」

この答えを聞いて、改革を進める上でのリーダーシップの重要性を改めて感じた。

事例発表② 兵庫県南あわじ市 教育長 浅井伸行氏



◆南あわじ市は中学生が1年生から3年生まで1159名おり、運動部34、文化部12で計46の部活がある。しかし2022年に生まれた子どもが192名で、いずれ中学校の生徒数が確実に600名を切る。

この現状から、部活動地域移行はまずやらないという選択肢はない。令和5年4月から必ずスタートすると決めた。基本方針として、1つ目は子どもたちの選択の幅を狭めず、反対にこれまでの部活動ではできなかったことへも広げていくということ。そして2つ目は「できるところからできる範囲で」進めていくということ。

まず部活動の受け皿となる団体に私自身何回も説明に行き、強制ではないことを説明し「受け入れ可能な条件」を挙げるよう依頼した。

受け入れ団体の準備をしつつ、子どもたちにはアンケートを取り、各団体とマッチングしていくという作業を行った。

非常に大切なのは、どのような協力体制を作っていくかということ。私は最終的に社会教育への移行だと思っている。部活動をやりたいところは部活動をやる。合同部活動もある。統廃合もある。

また本市のB&G海洋センターも部活動の地域移行の核となる施設として、今後も有効利用しながら、子ども達の選択肢を広げていきたい。

事例発表③ (株) オフィスホシノ 代表取締役 静岡聖光学院 前学校長/東芝ブレイブルーパス東京 プロデューサー 星野明宏氏



◆私が勤めていた学校は、私学ではあるものの創設者の意向で、部費も少なく、練習できるのも週3回、平日60～90分など、部活には校則として様々な制約があった。ラグビー部顧問就任当初は、花園予選で1番鍛えたい時期に、ウォーミングアップ

プをしていたら終了時間が来てしまうような状況。

そこで発想の転換をし、時短の練習メニューを取り入れ、自分自身に必要なメニューを考え、取り組ませるなど生徒達の主体性を引き出すマネジメントをし、いわゆる「ひとり部活改革」をした。

部活動を地域に移行するヒントとして、「部活を何とかしないと」と言うと無理だ。なぜなら部活で一生懸命やって良い思いをして、大人になっている人は意外に少ない。それ以外の人に関心を持ってもらうように、地域の活性化や人手不足の解消などの未来を伝え、巻き込むのが大事だと感じる。

クリエイティビティというのは自由からは何もできず、制約があるからこそ実現できるといわれる。今の子ども達は予測不能な時代を何とか突破していく必要がある。大人の得意ジャンルは、資金集めやネットワークもしくはコンプライアンスやリスクマネジメント。子どもたちには発想を任せ、役割分担をして、大人もチャレンジすることで部活動改革がどんどんいい方向に進み、自分らしく生きられるような未来ができれば嬉しく思う。

質疑
応答

以上の発表を受け、出席者との活発なディスカッションを展開。
特に、衝撃的な改革を進める掛川市教育長への質問が集中した。

参加の教育長: 掛川市の部活動廃止は非常に驚いた。中学校の部活動を指導したくて教職員になった人もいるだろう。今回の方針について教職員の反応・実態はどうだっただろうか。



掛川市教育長: 部活動の指導をしたいかどうかについて調査をしたところ、「したい」と答えたのは5%。95%は部活動から離れたたいと回答していたのが実際の声。現状として、約7割が掛川市外から通勤している教職員で、土日は通勤手当が出ないのに、疲れてしまって、また月曜日から元気に授業することが難しいのではと思う。逆に言えば「掛川市に配属になれば、部活動をしなくて済む」というような方もいると期待しているのが本音。

参加の教育長: 保護者からの反応はどうだったか。



掛川市教育長: 部活動を廃止し、地域クラブに移行することについて、今のところ、「部活動が無くなるとは困る」等の意見は挙がっていない。いきなりは出来ないなので、時間をかけてゆっくり移行していく。まずゴールを決め、●年度までにクラブへ移行します、というはっきりとした方針を示した。既に、「クラブがあるなら」と言ってクラブに流れている現状もある。令和8年には部活動を廃止するが、その後も行政が責任をもって、クラブの運営については様子を見ながら支援する予定。今後も学校現場の厳しい状況も順序立てて提示していく。むしろ、「どんなクラブがあるのだろうか」という点に興味に向いている。

参加の教育長: 私は南あわじ市の考えに賛成。掛川市はどこまで子ども達の意見を徴収・反映させたのか。当市で昨年各校の生徒会長・副会長等を中心に実施した教育長出前講座の中で、「君たちにとって一日の学校生活の中で、部活動はどの程度を占めているか」と質問した。多い子は8割、平均でも6割と回答した。予想を超える回答に、「子どもたちが部活動に対してこんなにも大きな意味と喜び・期待を感じているのか」と考えさせられた。



掛川市教育長: 本市も子どもファーストということで改革を進めているが、これは、子どもどうこうではなく、大人の責任として、社会や教育の構造を変えていかなければいけないということ。今、地域によって子どもの状況・実態も異なると思う。実際に、自分のやりたい部活ができている子はそのままいいと思っていると思うし、このままもっとやりたいと思っていると思う。しかし、実際調査すると、もっと他のことがやりたい(料理やバドミントン等)という意見が出てきている。それが時代だと思う。多様性の時代の中で、子どもたちのニーズに応え、受け皿を示し、作っていくのが、我々、行政、大人の責任ではないかと思う。それと、色々な年齢、子どもから大人まで含めたコミュニティの中で活動できる環境を整えたいため、考え方を変え、生涯学習という大きな枠組みで、理念をもって進めていきたい。

● SESSION 2 「子どもが主役の改革を」



今回のシンポジウムは「子どもが主役」の改革にしなければならないというのがテーマ。事前アンケートでも「子どもを主役にすべきではないか」という意見が多く出ていた。では具体的に、「どう」子どもを主役にして、部活動を改革していくのか。これに関しては、中々簡単ではない。

そこで後半戦は、具体的な手法と課題解決に向けたディスカッションが繰り広げられた。

全国の子どもたちが求める文化・スポーツ活動とは？ —イマチャレ1万人アンケートの結果から—

筑波大学 体育スポーツ局 研究員
つくば市部活動改革統括コーディネーター 稲垣和希氏



◆部活動改革を進めていくための根拠となるデータが必要ではないかと考え、今回実施したアンケートでは2023年7月から9月の期間で、中学1年生から3年生を対象に、1万2000を超えるデータを取得した。75%の生徒が部活動改革を知らないという結果が出ているほか、生徒は主体的で多様な経験を求めていることがわかった。

生徒がどれくらい部活に費やしているか調べてみると、運動部は年間515時間。授業数は850時間と言われているが、その3分の2ほどを運動部に費やしている。これに学校以外の習い事などが年間250時間。因果関係は不明ながら6時間未満の睡眠時間の生徒が3割程度という結果もあり、平均でも、中学生の推奨睡眠時間といわれる8時間30分を大きく下回っている。世界と比較してみると日本の部活動は非常に特殊で、異常と言われてもおかしくない。

一つの活動に熱中してこそこの学びというものもあると思うが、これだけ価値観が多様化し、転職も当たり前になり新しいものを生み出していく社会の中で、今の部活のやり方が本当に子どもたちのためになるのか。多様な体験をするための時間を子どもたちに返していくという発想も必要なのではないか。この改革は、各自治体においても一部ではなくすべての子どもの声、そして教員や保護者の声を聞いて進めていくことが重要だと考えている。

(一社) 未来地図 代表理事/長野県飯田市 前教育長 代田昭久氏



◆長野県飯田市の教育長に就任して部活動の現状を改めて見たとき、体罰の問題や不登校の原因になっていることを知り驚いた。一度全ての子どもたちが部活動をどう思っているのか知りたく、平成30年度に実態調査をしたのが、私の部活動改革の発端だ。

結果、部活動時間が665時間以上あり、400時間程度の適正な時間にするという方針を掲げた。校長会そして子どもたちのアンケートを基に、まずは1ヶ月間だけ放課後の部活動をオフにし、令和2年度からは冬季11月～1月の部活動を止める決断をした。

当初「オフ期間」に賛成した子どもは44%だったが、反対派の子どもたちに意見を聞くと、時間があってもやりたいことがわからないという。そうなるとう教育の根本的な問題として、部活動は子どもたちの内発性・主体性を育てていないのではないかととなった。そこで令和3年度に筑波大学と連携協定を結び、スポーツ心理学を導入。内発的動機付けが生まれるような時間にするため、「オフ期間」という名前をやめ、地域の受け皿を作りながら「ジブンチャレンジ期間」にした。

現在は14市町村と連携し、1番人気のeスポーツの他、長野県阿南町海洋センタープールでのカヌー・SUP体験や、下條村海洋センターでのクライミング教室など、オフ期間に多様な活動を提供している。部活動の地域移行については、子どもたち主体で今の課題は何なのかということにフォーカスしている自治体ほど進む傾向にある。

● SESSION 3 「課題解決に向けて」



目の前の課題を「どう」解決するのか。
事前アンケートの中で上がった部活動の地域移行に
おける課題は、①財源 ②人・受け皿。



最後のセッションはこの課題について議論した。

①財源について

南あわじ市では、市独自の財源、助成金を使って改革を進めている。



南あわじ市教育長: 私は補助金をつけることには基本的には反対。課題は沢山ある。少年団のような活動が目指すべき姿だと思う。指導者は自分たちで決めている、お金も自分たちで出して運営している。送迎も保護者がやっている。課題解決のためにお金を付けると、お金が無くなった時に続かなくなる。ただ、スタートアップするにあたって、課題をクリアするために、少しのお金は必要という結果に落ち着いた。特に、用具の準備と受け入れ団体の強化・体制づくりは必要だと考え、その体制づくりと活動に必要な用具の購入に15万円を3年間助成。受け入れ団体に繰り返し伝えていけるのは、「子どもの選択肢の幅を狭めないでほしい」ということ。そのような説明をしながら、理解を促している。

一方、掛川市では、受益者負担で改革を進めている。



掛川市教育長: この方針を打ち出した時、色々な批判の声が来ることを想定していたが、意外と無かった。現場の大変さやどうしてお金がかかるのかというそもそもの話から説明をしていった。生涯学習の一環として部活動の地域移行を考えていると申したが、要は、「子どもたちは習い事をやるんだ」「習い事に公費を払うのか」という話をしたら、納得してもらえたと思っている。中学生が中学生のチームをつくってやるのではないという考えで実践しているので、ある意味、色々な取り組みを経験してもらいたいという考えをもとに、ひとつではなく色々なクラブに所属できるとなると、ある程度「習い事」だという認識は、ほとんど理解してもらえる。そうすると今度、家庭格差が出る。そこは当然、世帯収入に応じて、金額を定め、ある程度支援していく。

色んな取り組みを経験してもらいたいという考えをもとに、ひとつではなく色々なクラブに所属できるとなると、ある程度「習い事」だという認識は、ほとんど理解してもらえる。そうすると今度、家庭格差が出る。そこは当然、世帯収入に応じて、金額を定め、ある程度支援していく。

企業版ふるさと納税を活用することで財源を確保している自治体もある。

参加の教育長: 地域クラブに移行する前に先生方の負担を軽減しようということで、専門家の指導員を派遣。その際に企業版ふるさと納税を使って謝金を払い、技術力を高めることをした。「新しい部活動における技術面の充実と教員の負担軽減になるような地域づくりを行っていますので、支援してください」というかたちで企業版ふるさと納税を活用。掛川市と同じように我々も「最終的には『習い事』なので、受益者負担になるだろう」という話はしている。ただ、家庭格差があるが、公費では賄えないため、チャリティー資金ということで、「地域で愛された子どもは地域を愛するようになる」という考えのもと、企業へ呼びかけをし、今年第1回目のチャリティーを開催。移行期間までの3年間はふるさと納税やチャリティー資金で補うべく、現在資金を調達中。

②人・受け皿について

プロスポーツチームとの連携。プロチームこそ地域貢献を望んでいる。



星野氏: 各チームに義務のようなかたちで「地域貢献」と「普及」が課せられているため、実は貢献したくてしょうがない。ただ、どうやって自治体の方にアプローチすればいいかわからないことが多い。選手のオフ期間や引退した選手でチームスタッフになった人等は声をかけてもいい。オンラインでの指導だとさらにハードルが下がるので、実践してみてもいいのではないか。

大学との連携。持続可能なしくみを整えるには。



稲垣氏: 指導者の確保という面で、大学生活用はひとつ選択肢ではないかと思う。指導者は多様であり、専門性や週どれくらい来られるかを把握し、ニーズをマッチングする必要がある。また、指導者側のメリットも提示して頂かないと持続可能につながらない。大学生側の状況も配慮しながら、謝金や通勤の面は配慮する等、win-winの関係を作ることが大事。

第20回「B&G 全国教育長会議」の提言

第20回

一. 持続可能なスポーツ環境の整備

地域一丸となり、子ども達が将来にわたり多様なスポーツに親しめる環境を創ろう



2023年11月8日
海洋センター所在市町村 教育長 一同

20回目を迎えた「B&G 全国教育長会議」での提言は「持続可能なスポーツ環境の整備」を提案します。私たちに課された「部活動の地域移行」というこの度の改革は、「教員の働き方改革」が必要だという社会的背景はもちろんのこと、真の主役は子ども達でなくてはならないと思います。

少子高齢化や過疎化が進む現代、このままいけば、子ども達が好きなスポーツや文化芸術活動に取り組む環境の確保が難しいという事態に必ず直面します。学校の統廃合や生徒数の減少に伴う部活動種目の減少など、特に中山間地域の自治体においては、すでに子ども達の選択肢が減っており、憂慮すべき状況です。

学校や B&G 海洋センターなどの社会体育施設を有効活用し、地域の大学などの教育機関やスポーツ団体、ボランティア指導員などに協力を頂きながら、ご家庭の理解も得て、地域が一丸となって、将来にわたり子ども達が多様なスポーツに親しめる環境を創り、心身ともに健康な子ども達を育てていくことが重要ではないでしょうか。



提案する成田市教育長 関川会長



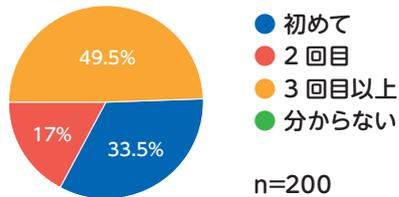
◎執行部からの提案を受け、会場の賛同のもと、子ども達のために、知恵を絞り、B&Gの全国ネットワークも活用しながら、課題を乗り越え、取り組んでいくことが確認されました。

アンケート集計結果

1. アンケート回収率 205名 / 212名中 (回収率 96.7%)

※出席された教育長または代理を含む計212名

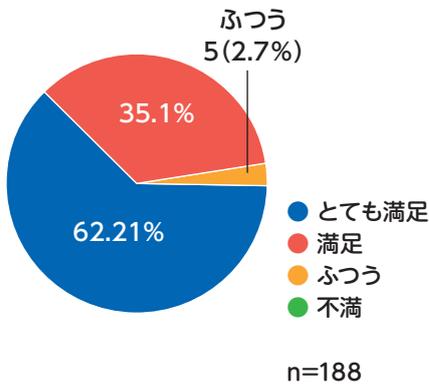
●何回目のご出席でしょうか。



回答いただいた 200 名のうち、66.5%の方が2回目以上のリピーターであった。出席者の約半分が、3回以上にわたりご出席いただいている。

また、今回参加された理由としては、「テーマ内容に興味があったから」「昨年度も参加し、内容が良かったから」との回答が多かった。

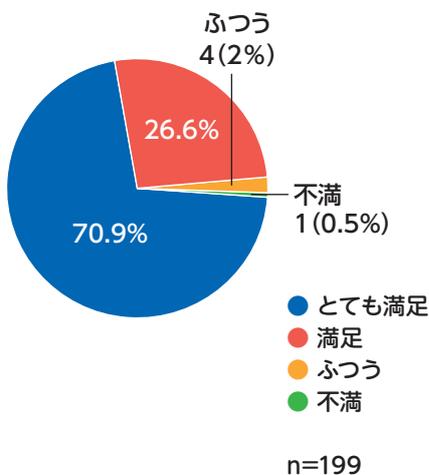
2. 本会議の全体満足度 97.3% 『とても満足』『満足』



その理由

- 内容が充実、テーマがタイムリーであったため
- 提言が一樣ではなく、各々考えるため、勉強になったから
- 登壇者による討論を中心とした協議の方が議論を深めやすいから
- 広くて換気や照明も万全、大型モニターなど素晴らしい施設環境
- 提供された情報が最新のもので、教育行政を進める上で極めて有益なため
- 具体的な取組みと他業種からの経験や分析を踏まえた視点が新鮮で参考になったため

3. シンポジウムの満足度 97.5% 『とても満足』『満足』



その理由

- シンポジストの方々の本気度とその実践にふれることができたから
- 「子どもが主役」の意味を再確認できた
- コーディネーター（代田氏）が素晴らしかった
- フロアの参加者からの質問で、聞きたい内容が深掘りできたのがよかった
- 選りすぐりのシンポジストから鋭角的なご意見をいただき、大変参考になった
- 対局的な立場での二人の教育長の発表が参考になった
- 今回はシンポジストとして参加させていただきました。もう少し、シンポジウムの時間があれば、お伝えしたいことや、議論したいことなど、お話することができたかと思っています。そのような意味で満足度「不満」とさせて頂きました。

第 20 回「B&G 全国教育長会議」を終えて



「B&G 全国教育長会議」会長
千葉県成田市 教育長 関川 義雄 様

今回はどの自治体でも喫緊の課題としている問題について、積極的に取り組んでいる自治体の事例発表を中心とし、部活動の地域移行に関する基本的な考え方を今一度見直す機会とすることができました。

とりわけ、中心となる子ども達の声に耳を傾け、将来にわたって持続可能な取り組みはいかにあるべきか考えることこそ最も大切なことだと感じさせられました。

単に今ある部活動を地域に移行する、という考え方ではなく、子ども達が本当にやりたい活動を地域でできるようにしていくことこそ本来のあるべき姿ではないかと思いました。シンポジストの皆さんの発表を、もっと聞きたい、質問したい、話し合いたい、と思えるような内容でした。



「B&G 全国教育長会議」副会長
兵庫県養父市 教育長 米田 規子 様

このたびは大変お世話になりました。

今回のシンポジウムでの、シンポジストの皆様のご発表が大変素晴らしく、それぞれの具体的で個性にある取り組みを伺うことができました。

当会議を企画、コーディネートされた B&G 財団様の企画力に頭が下がり、流石だと感服いたしました。正に、今知りたい、情報交換をしたい内容で、私ばかりでなく、すべての教育長様にとって、大きな収穫のある会議であったと思います。

トップのリーダーシップを発揮せずして現場の改革は無いと、心新たにしました。

また、部活動の地域移行には、たくさんの困難もありますが、その先には明るい希望があるということも発見できました。もっと時間が欲しいと思うほど、充実した会でした。200 名を超える大勢の教育様のご参集されたことは、これからの B&G 様への期待と共になんとかかせねばの思いの現れと感じました。今後も、今回のようなシンポジウムを是非企画していただきたいです。



「B&G 全国教育長会議」副会長
岡山県奈義町 教育長 和田 潤司 様

第 20 回「B&G 全国教育長会議」が盛大に開催されましたことに心より感謝申し上げます。今回は、「地域の子どもは地域で育てる！～子どもが主役の部活動改革～」をテーマに中学校部活動の地域移行に向けた取り組みについて、シンポジウムや先進事例の発表が行われました。中でも、掛川市佐藤教育長、南あわじ市浅井教育長の事例発表は、今後の方向性をお示しいただくとともに、職責の重さを再認識させていただき、部活動の地域移行という大きな改革に勇気と責任を持って取り組む決意を新たにさせていただきました。

次回も、多くの教育長の皆様と共に有意義な会が持てますことを楽しみにして、日々の実践に取り組みたいと思います。

第20回「B&G全国教育長会議」参加者感想（一部抜粋）

○北海道 愛別町 教育長 馬場 信明 様

初めて参加させていただきましたが、大変勉強になりました。タイムリーな話題、課題について、様々な立場から参考になるお話を聞くことができ、今後に生かしていきたいと考えています。ありがとうございました。

○北海道 名寄市 教育長 岸 小夜子 様

昨年度、初めて参加させて頂き、タイムリーなテーマ下でのプログラムで大変勉強になり、以後の業務に役立ちました。今年度もテーマを拝見して関心のあるものでしたので、参加させて頂きました。シンポジウムの二事例は、大変参考になりました。地域実情を踏まえ、教育長としてリーダーシップをしっかり発揮していかなければならないと思いました。充実した会議の準備、運営を誠にありがとうございました。

○宮城県 栗原市 教育長 千葉 睦子 様

今回初めて参加しましたが、国の立場や民間の方、他の市町の教育長の立場など、様々なところからリーダーシップを発揮され課題に向かっているお話しは本当に学びがありました。ありがとうございました。

○秋田県 湯上市 教育長 工藤 素子 様

大変有意義で問題提起型のシンポジウムであったと感謝いたします。これは貴財団でなければできない企画と規模感だと思いますので、重ねて感謝申し上げます。地域課題は異なり、どれが正解ということのない問いへの挑戦であり、移行ありきではない、主役は子どもだという思いを新たにすることができ、心強く背中を押していただき帰途に着きました。

大変お世話になりました。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

○栃木県 那須烏山市 教育長 田代 和義 様

シンポジウムで事例などをお聞きし、前向きに地域移行に取り組まねばならないと思いました。指導教員の処遇や予算面に触れることが少ないことに疑問を感じました。

稲垣先生の発表をお聴きし、これまでの心の中にあったモヤモヤの原因が、この改革が一体何を目指しているのかが良く理解できていないことということが分かりました。

教育が人間形成を目指すのであれば、地域移行でその目標はどうなるのかははっきりしていない。施設・地域格差があるなかで、少なくとも大きな目標くらいは、文科省は示すべきではないかと感じました。

○群馬県 みなかみ町 教育長 田村 義和 様

シンポジウムのテーマがタイムリーで、思うように進められない本町にとって大変有意義な内容でした。先進的な事例はとても刺激的で、教育長のリーダーシップがいかに大事かということを感じ、先進事例に対してフロアーからも質問が出てみんなが聞きたいことをさらに聞けて、内容が深められたと思います。

○新潟県 燕市 教育長 小林 靖直 様

いつも大変勉強になります。参考になる情報が豊富でとてもありがたいです。「部活動の地域移行」は、当市でも苦しみながら進めておりますが、壁にぶち当たることが多く、思ったようにはまだまだ成果が出ません。本日の説明やシンポジウムでとても多くのヒントや視点をいただいたので、勇気が湧いてきました。しっかり取り組みを進めて参ります。とても貴重な研修の場となりました。本当にありがとうございました。

○新潟県 上越市 教育長 早川 義裕 様

「部活動の地域移行」というタイムリーな課題について、最新の事例や情報が得られて大変参考になりました。少子化で児童生徒数の減少、学校の小規模化が急進する中、さまざまな観点から示唆に富んだ話が聞け、有意義な会議となりました。どんな取り組みでも改めて「子ども中心」に議論を進める必要性を強く感じ、今後もこうした研修の機会を定期的に設定していただきたいです。

○新潟県 胎内市 教育長 中澤 毅 様

今まで以上に中身の濃い研修をさせていただきました。特にシンポジウムは各自治体とも最も課題としているテーマであり、選りすぐりのシンポジウムから鋭角なご意見をいただき、大変参考になりました。自分事として参加できるすばらしい会議であったと思います。